BOOK NEWS from MARUZEN-YUSHODO

2025.02.27 作成

2025 年 2 月新聞書評に掲載された本

雪夢往来

木内 昇 著

新潮社

ふるさと越後が江戸で知られていないと悟った鈴木牧之。彼の書いた「雪話」は山東京伝の目に留まり、出版へと動き始めるが…。名著「北越雪譜」が世に出るまでの風雪と虚々実々の江戸出版界を描く。『小説新潮』掲載を書籍化。

産経新聞 2025/02/02

2024:12./ 397p
978-4-10-350957-8
¥2,200〔税込〕

廃墟建築家(オーストリア綺想小説コレクション 1)

ヘルベルト・ローゼンドルファー 著

国書刊行会

廃墟建築家が設計した葉巻形の巨大地下シェルターに、世界の終末を逃れて避難した主人公。そこで彼が夢みるのは、カストラートの公爵の 7 人の姪が代わる代わる語る、不思議な物語…。

産経新聞 2025/02/02

2024:12./ 465p
978-4-336-07680-9
¥4,620〔税込〕

養老先生、がんになる

養老 孟司／中川 恵一 著

エクスナレッジ

心筋梗塞の奇跡的回復から 4 年、肺がんで再び入院した養老先生。がんが発見されてから、養老先生の意識や考え方に変化はあったのか? 抗がん剤治療の途中までの約 3 カ月間を、養老先生と東大病院の中川恵一先生が語る。

産経新聞 2025/02/02

2024:11./ 207p
978-4-7678-3343-9
¥1,540〔税込〕

●ご注文の際には，タイトル・出版社名・価格のほか、資料 ISBN も併せてお知らせください。
●原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
●ご注文、ご照会は弊社本・支店・営業部（課）までお申し付けください。
●表示価格は 2025 年 2 月時点での税込み価格です。

MARUZEN-YUSHODO
丸善雄松堂株式会社 ［学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部］
〒104-0033 東京都中央区新川 1-28-23 東京ダイヤビルディング 5 号館 10 階
URL kw.maruzen.co.jp Email: marketing@maruzen.co.jp

Twitter から X へ 世界から青い鳥が消えた日～ジャック・ドーシーからイーロン・マスクへ、炎上投稿、黒字化、買収をめぐる成功と失敗のすべて～

カート・ワグナー 著
翔泳社
ジャック・ドーシーが目指した Twitter の本来の姿と手放したワケ、イーロン・マスクの見せた買収直前の裏切り、そして就任後に社員を驚愕させた改革の数々。青い鳥が「X」になるまでのバックストーリーを一挙に物語る。

産経新聞 2025/02/02

2024:11./ 407p
978-4-7981-7866-0
¥2,200〔税込〕

それからどうなった?～あのころ輝いた場所の「今」を歩く～

鼠入昌史 著
理工図書
先人たちの夢の跡を歩く旅は、今の自分を振り返る旅になる-。地方競馬の希望の星「高崎競馬場」、東京湾岸“夢の国”ことはじめ「船橋ヘルスセンター」など、今はなき 16 の施設の“その後”を辿る。

産経新聞 2025/02/02

2025:1./ 249p
978-4-8446-0969-8
¥2,640〔税込〕

ダンス

竹中 優子 著
新潮社
同じ部署の 3 人が欠勤を繰り返し、3 人分の仕事をやらされる私。ある日、3 人のうちの 1 人である先輩女性下村さんから、彼らの三角関係について知らされ…。翻弄される私の日々を描く。『新潮』掲載を単行本化。

産経新聞 2025/02/02、朝日新聞 2025/02/22

2025:1./ 120p
978-4-10-356081-4
¥1,870〔税込〕

遊牧王朝興亡史～モンゴル高原の 5000 年～(講談社選書メチエ　818)

白石 典之 著
講談社
モンゴル高原に生きる遊牧民の動向は、ときに大きく各地に衝撃を与えてきた。彼らはいつから馬に乗り遊牧はどのように始まったのか、鉄はどこで産出され首都はいかに建設されたのかを、考古学で明らかにする。

産経新聞 2025/02/09

2025:1./ 333p
978-4-06-538320-9
¥2,365〔税込〕

石器づくりで何がわかるか～実験考古学教本～

長井　謙治 著
吉川弘文館
人類が最初に手に入れた道具である石器。それはどのように作られ、利用されてきたのか。実際に石器を作って使う実験を基本から解説。「過去の追体験」によって、人類の歴史を追究する。

産経新聞 2025/02/09

2024:10./ 330p
978-4-642-08466-6
¥2,860〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

その日も曇天で

野木ともみ 著
思潮社
この遊びがきれいさっぱり終わるのは ここを離れるとき それまで あやふやな終わりのとなりにすわっていよう 立ち上がったらもう何も感じないのだから(「あやふやな終わり」より) 第 3 詩集。

産経新聞 2025/02/09

2025:1./ 109p
978-4-7837-4597-6
¥2,530〔税込〕

モーロク日和

坪内稔典 著
創風社出版
「行き先はあの道端のねこじゃらし」 がんばらないで草の花のように風に気ままに揺れていたい…。そう願いモーロク人生をめざす、俳人ねんてん先生のエッセー集。「ヒマ道楽」の続編。『産経新聞』大阪版連載を書籍化。

産経新聞 2025/02/09

2025:1./ 103p
978-4-86037-348-1
¥1,430〔税込〕

旅人の食～旅の記録と食風景～

山本志乃 著
教育評論社
人類の歴史は旅の歴史でもある。それは、食を求めての旅であった。どんな旅人が、どこで、どんな食の風景と出会ったのか、それらをその人の生きざまや時代背景とともに紡ぎ合わせる試み。『vesta』連載等を加筆修正。

産経新聞 2025/02/09

2024:11./ 279p
978-4-86624-108-1
¥2,640〔税込〕

二十四五

乗代 雄介 著
講談社
作家になった二十四五の私は、弟の結婚式に参列するため、仙台に向かっている。5年前に亡くなった叔母の痕跡を求めて、往復する時間の先にあるものとは-。喪失を抱えたまま生きていく、祈りの記録。『群像』掲載を単行本化。

産経新聞 2025/02/09、朝日新聞 2025/02/22

2025:1./ 109p
978-4-06-538328-5
¥1,650〔税込〕

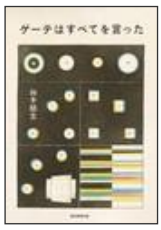
土と生命の 46 億年史～土と進化の謎に迫る～(ブルーバックス　B-2278)

藤井 一至 著
講談社
現代の科学技術をもってしても作れない「生命」と「土」。生命の誕生から動植物の進化と絶滅、人類の繁栄、文明の栄枯盛衰にまで大きく関わってきた土の進化を、46億年の地球史と生物進化の壮大なストーリーとともに描く。

産経新聞 2025/02/09、日本経済新聞 2025/02/22

2024:12./ 265p
978-4-06-537838-0
¥1,320〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO



ゲーテはすべてを言った

2025:1./ 188p
978-4-02-252039-5
¥1,760〔税込〕

鈴木結生 著
朝日新聞出版
高名なゲーテ学者・博把統一はある日、彼の知らないゲーテの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求めて膨大な原典を読み漁り、長年の研究生活の記憶を辿るが…。『小説トリッパー』掲載を書籍化。

産経新聞 2025/02/16

透析を止めた日

2024:11./ 325p
978-4-06-534279-4
¥1,980〔税込〕

堀川 惠子 著
講談社
なぜ、透析患者は「安らかな死」を迎えることができないのか? どうして、がん患者以外は「緩和ケア」さえ受けられないのか? 透析患者の終末期に生じる問題について、患者の家族の立場から国の医療政策に一石を投じる。

産経新聞 2025/02/16

キーウで見たロシア・ウクライナ戦争～戦争のある日常を生きる～(星海社新書 318)

2024:11./ 191p
978-4-06-537679-9
¥1,320〔税込〕

平野 高志 著
星海社
ロシア・ウクライナ戦争下、ウクライナ国民はどのように生活し、何を感じているのか。空襲、物資、娯楽、徴兵、復興…。ウクライナ在住 16 年の日本人記者が、「戦争のある日常」を包み隠さず語る。

産経新聞 2025/02/16

楽園の楽園

2025:1./ 97p
978-4-12-005875-2
¥1,650〔税込〕

伊坂幸太郎 著
中央公論新社
謎の人工知能「天軸」の暴走で、世界は混乱に陥った。五十九彦、三瑚嬢、蝶八隗の 3 人は、人工知能の開発者が描いたという巨大な樹の絵画「楽園」を手掛かりに、暴走する「天軸」の所在を探り…。

産経新聞 2025/02/16

飛鳥・藤原の歴史と遺産～宮都の建設と生活～<上>

2025:1./ 232p
978-4-642-08470-3
¥2,420〔税込〕

木下　正史 著
吉川弘文館
天皇の宮殿、蘇我氏の邸宅、寺院など、新たな発掘成果で人びとを魅了する飛鳥・藤原の地。宮都の造営、天皇の儀礼などを詳述し、東アジア史の中で「日本国」の誕生と文明化の過程を跡づけ、遺跡群の価値を世界へ発信する。

産経新聞 2025/02/16

骨を喰む真珠

北沢 陶 著
KADOKAWA
大正 14 年。女性記者・苑子は身上相談欄への奇妙な投書を受け取る。大手製薬会社・丹邨製薬の社長令息からの手紙であり、不審を覚えた苑子は丹邨家に潜入する。調査を進めるうち、その異様さが明らかになっていき…。

産経新聞 2025/02/23

2025:1./ 303p
978-4-04-115247-8
¥1,925〔税込〕

はじめての大乗仏教(講談社現代新書　2764)

竹村 牧男 著
講談社
「縁起」の世界観とは。なぜ「他力」なのか。迷いの構造とは。生死輪廻のしくみとは。仏と成るとは-。大乗仏教が有する特質や世界観(法相)、実践論(修道論)の基礎的な知識をわかりやすく解説する。

産経新聞 2025/02/23

2025:1./ 317p
978-4-06-538358-2
¥1,320〔税込〕

検証空母戦～日米英海軍の空母運用構想の発展と戦闘記録～

ラース・サレンダー 著
中央公論新社
航空母艦同士の戦闘が初めて行われた太平洋戦争。空母の設計思想や船体構造から、艦載機の発艦・着艦に伴う技術、整備員の稼働状況、ハトの運用まで、様々な観点から分析し、日米英の空母の運用構想の発展と実際の戦闘を描く。

産経新聞 2025/02/23

2025:1./ 413p
978-4-12-005872-1
¥3,960〔税込〕

桜が散っても

森沢 明夫 著
幻冬舎
趣味の釣りをきっかけに、週末を桑畑村で過ごすようになった忠彦。そこは彼にとって第二の故郷となったが、数年後、自身が勤める建設会社が桑畑村でリゾート開発を進めていることを知り…。『小説幻冬』掲載を加筆・修正。

産経新聞 2025/02/23

2024:12./ 334p
978-4-344-04389-3
¥1,870〔税込〕

中西進と万葉画を楽しむ

中西進／井上さやか 著
淡交社
万葉集研究の第一人者で、奈良県立万葉文化館名誉館長でもある著者が、27 首の万葉歌をモチーフとした「万葉日本画」を通して、思い起される様々なことを綴る。奈良県立万葉文化館友の会会報『天飛ぶ』に連載を加筆修正。

産経新聞 2025/02/23

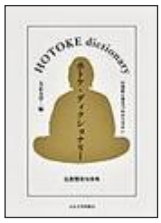
2025:2./ 133p
978-4-473-04656-7
¥1,980〔税込〕

三島由紀夫海の詩学「花ざかりの森」へ

鈴木 ふさ子 著
鳥影社
三島由紀夫はなぜ海を多くの作品に描き込んだのか。幼年期の詩から「花ざかりの森」まで、海と関連する三島の作品を取り上げ、論じる。『季刊文科』連載に加筆修正し、書き下ろしを加え単行本化。

産経新聞 2025/02/23

2024:11./ 394p
978-4-86782-134-3
¥2,860〔税込〕



ホトケ・ディクショナリー～仏教慣用句事典～

大正大学『ホトケ・ディクショナリー』編集委員会 編
大正大学出版会
「往生際が悪い」「堪忍袋の緒が切れる」「絶体絶命」「他力本願」…。仏教慣用句108項目をエッセイ風に紹介するとともに、出典などについて解説する。生活の中に溶け込む仏教思想と親しめる一冊。

産経新聞 2025/02/23

2024:6./ 191p
978-4-909099-83-9
¥1,100〔税込〕

本なら売るほど<1>(HARTA COMIX)

児島 青 著
KADOKAWA
ひっつめ髪の気だるげな青年が営む古本屋「十月堂」。店主の人柄と素敵な品ぞろえに惹かれて、今日もいろんなお客が訪れる。本を愛し、本に人生を変えられたすべての人へ贈る、珠玉のヒューマンドラマ!

朝日新聞 2025/02/01

2025:1./ 192p

夫の遺言が「同人誌描け」だったもので<1>(星海社 COMICS　ツイ 4)

むんこ 著
星海社
一家の愛されお母さん弥子の亡くなった夫の遺言は「同人誌描け」だった。子育てと介護に一生懸命だった弥子にもう一度同人誌を描いてもらおうと、子どもたちはオールジャンルの同人イベントに参加を申し込む。

朝日新聞 2025/02/01

2024:11./ 127p
978-4-06-537684-3
¥869〔税込〕

yoshie inaba

稲葉 賀恵 著
講談社
1970年、一世を風靡した「BIGI」立ち上げから、2025年2月「yoshie inaba」ブランドクローズまで-。稲葉賀恵が、半世紀を超えるデザイナー人生を、貴重なコレクション写真や資料とともに語る。

朝日新聞 2025/02/01

2024:12./ 183p
978-4-06-537958-5
¥5,500〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

いかれころ(新潮文庫　み-68-1)

三国 美千子 著
新潮社
昭和の終わり、南河内に暮らす一族の娘に縁談が持ち上がる。本人の考えを他所に、結納金や世間体を巡り親戚中の思惑が忙しくぶつかり合う。その喧噪を、分家の少女はじっと見つめていた…。

朝日新聞 2025/02/01

2022:2./ 152p
978-4-10-103661-8
¥506〔税込〕

夫婦善哉 決定版(新潮文庫 お-2-1)

織田 作之助 著
新潮社
惚れた弱みか腐れ縁か、ダメ亭主柳吉に尽くす女房蝶子…。大阪文学の名作「夫婦善哉」に、新発見の幻の続編を収録した決定版。ほか、「木の都」「六白金星」「アド・バルーン」など全 7 篇を所収。

朝日新聞 2025/02/01

2016:9./ 304p
978-4-10-103702-8
¥572〔税込〕

その街の今は(新潮文庫)

柴崎　友香 著
新潮社
芸術選奨文部科学大臣新人賞、織田作之助賞大賞、咲くやこの花賞、三賞受賞。過ぎ去った時間を優しく包みこむ大阪の街。そこに暮らす若者の日常を描く、温かな物語。

朝日新聞 2025/02/01

2009:4./ 158p
978-4-10-137641-7
¥440〔税込〕

告白(中公文庫)

町田　康 著
中央公論新社
朝日新聞 2025/02/01

2008:2./ 850p
978-4-12-204969-7
¥1,257〔税込〕

ロシア的人間　新版(中公文庫　い 25-7)

井筒 俊彦 著
中央公論新社
千変万化するロシア国家の深奥にあって、多くの人を魅了する魂のロシアとは何か。プーシキンからドストイェフスキー、チェホフにいたる 19 世紀の作家たちの精神を辿りつつ、「ロシア的なるもの」の本質に迫る。

朝日新聞 2025/02/01

2022:7./ 339p
978-4-12-207225-1
¥1,210〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

不自然な食卓～超加工食品が人体を蝕む～

クリス・ヴァン・トゥレケン 著

早川書房

超加工食品(UPF)は本当に体に悪いのか? もしそうなら、その食品のどの要素がどのような仕組みで人体に害を及ぼすのか? 1 カ月間 UPF を食べまくる生活を実践した著者が、その経過とともに UPF を徹底的に解剖する。

朝日新聞 2025/02/01

2024:9./ 471p
978-4-15-210365-9
¥3,300〔税込〕

法の人類史～文明を形づくった世界の秩序 4000 年～

フェルナンダ・ピリー 著

河出書房新社

古代のハンムラビ法典から現代の国連法まで、4000 年に及ぶ法づくりの歴史を俯瞰。マフィアの掟、宗教の法、チベットの慣習法など、これまで見過ごされてきた<共同体独自のルール>にも光を当て、法の役割を捉え直す。

朝日新聞 2025/02/01

2024:12./ 374p 図版 16p
978-4-309-23165-5
¥5,940〔税込〕

第一次世界大戦記～ポワリュの戦争日誌～

モーリス・ジュヌヴォワ 著

国書刊行会

パリ高等師範学校修了時に第一次世界大戦が勃発し、急遽招集されたモーリス・ジュヌヴォワは、泥土と泥水にまみれ、至近で敵と対峙する塹壕戦を戦う日々を送ることに…。戦場と戦闘の実相、実態を精細克明に描く。

朝日新聞 2025/02/01

2024:9./ 683p
978-4-336-07655-7
¥4,950〔税込〕

移民都市

レス・バック／シャムサー・シンハ 著

人文書院

排外主義が渦巻くこの時代、ロンドンの移民青年たち 30 人と継続的に対話を重ね、その苦悩や格闘の軌跡をつぶさに辿る。理論と対話の現場を往還しながら創り上げた、協働的で革新的な「都市の民族誌」。

朝日新聞 2025/02/01

2024:10./ 383p
978-4-409-24166-0
¥5,280〔税込〕

現代民俗学入門～身近な風習の秘密を解き明かす～(創元ビジュアル教養+α)

島村 恭則 編

創元社

地鎮祭は何のためにするのか? 運動会の綱引きはどこから来たのか? 「古老」はほんとうに「物知り」なのか? なぜ都市伝説は語られるのか? 伝統的な風習からネットミームまで、身近な文化を民俗学で理解する。

朝日新聞 2025/02/01

2024:3./ 151p
978-4-422-23045-0
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

東アジア現代史(ちくま新書　1839)

家近 亮子 著

筑摩書房

日本・中国・韓国を擁する東アジア各国の近代化は鎖国の終焉と共に始まり、植民地化、幾度もの大戦を経た今も冷戦構造が残る。協調と衝突を繰り返し突き進んできた過去を振り返り、少子化や安全保障問題に続く歴史を総覧する。

朝日新聞 2025/02/01

2025:1./ 512p
978-4-480-07667-0
¥1,540〔税込〕

通天閣(ちくま文庫　に-9-1)

西　加奈子 著

筑摩書房

このしょーもない世の中に、救いようのない人生に、ちょっぴり暖かい灯を点す驚きと感動の物語。織田作之助賞受賞作。

朝日新聞 2025/02/01

2009:12./ 272p
978-4-480-42669-7
¥638〔税込〕

税制と経済学～その言説に根拠はあるのか～

林 正義 著

中央経済社

労働所得税は勤労意欲を削ぐのか? 税は格差の縮小に貢献できるのか? 税制をめぐる「もっともらしい」言説が相応の根拠を持つかについて、経済学的な研究をレビューしながら検討する。『税務弘報』連載を基に単行本化。

朝日新聞 2025/02/01

2024:8./ 208p
978-4-502-48911-2
¥2,860〔税込〕

料理からたどるアガサ・クリスティー～作品とその時代～

カレン・ピアース 著

原書房

殺人の凶器として、登場人物の性格や社会背景を表す手段として、事件解決の手がかりとして、クリスティー作品には食べ物の存在が欠かせない。66 の長編の作品紹介、料理のレシピ、当時のイギリスの世相などを収録する。

朝日新聞 2025/02/01

2024:8./ 228p
978-4-562-07430-3
¥2,530〔税込〕

B 面昭和史～1926-1945～(平凡社ライブラリー　878)

半藤　一利 著

平凡社

民衆はかつてどんなふうに政府に騙され、あるいは同調して戦争に向かったのか。政治・経済・外交・軍事を中心とする「A 面の歴史」と対をなす、国民の目線から時系列で綴った“もうひとつの昭和史”。澤地久枝との対談も収録。

朝日新聞 2025/02/01

2019:2./ 655p
978-4-582-76878-7
¥1,100〔税込〕

五木寛之傑作対談集<1>

五木　寛之 著
平凡社
1970 年代から現在まで、作家・五木寛之のおこなってきた対談、鼎談を厳選して収録。1 は、モハメド・アリ、美空ひばり、ミック・ジャガー、赤塚不二夫、瀬戸内寂聴、福山雅治など 15 人を取り上げる。

朝日新聞 2025/02/01

2024:11./ 359p
978-4-582-83971-5
¥1,980〔税込〕

休息の歴史

アラン・コルバン 著
藤原書店
現代社会では、疲労回復やレジャーのための空白の時間と捉えられがちな休息。だが西洋史を振り返れば、休息には、永遠の安息・隠居・失脚等の日常の外への扉を開く豊かな含意があった。古代から現代までの「休息」を俯瞰する。

朝日新聞 2025/02/01

2024:10./ 171p
978-4-86578-438-1
¥2,860〔税込〕

編むことは力～ひび割れた世界のなかで、私たちの生をつなぎあわせる～

ロレッタ・ナポリオーニ 著
岩波書店
心安らぐ趣味として親しまれる編み物は、フェミニズムや社会運動を支えるツールでもあった。エコノミストで熱心な編み手でもある著者が、個人と政治、愛と経済を結び付け、社会を何度でも編み直してきたパワーの歴史をたどる。

朝日新聞 2025/02/01、東京・中日新聞 2025/02/02、毎日新聞 2025/02/15

2024:12./ 206p
978-4-00-061675-1
¥2,970〔税込〕

校正・校閲 11 の現場～こんなふうに読んでいる～

牟田都子 著
ＫＴＣ中央出版
マンガ、レシピ、ウェブ、地図、新聞…。言葉のあるところには、すべて校正がある。15 年以上、本の校正をしてきた著者が、校正・校閲の 11 の現場を訪ね、同業の人たちがどんな気持ちでどのように仕事をしているのかを聞く。

朝日新聞 2025/02/01、日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 141p
978-4-87758-868-7
¥2,200〔税込〕

日本軍兵士<続>　帝国陸海軍の現実(中公新書　2838)

吉田 裕 著
中央公論新社
先の大戦で 230 万人の兵士を喪った日本。死者の 6 割は戦病死による。その背景には、「正面装備」以外の軽視、下位兵士に犠牲を強いる構造、兵士の生活・衣食住の無視があった…。兵士たちの体験を通して日本軍の本質を描く。

朝日新聞 2025/02/01、毎日新聞 2025/02/08、読売新聞 2025/02/16

2025:1./ 264p
978-4-12-102838-9
¥990〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

比翼の象徴 明仁・美智子伝<上>　戦争と新生日本

井上 亮 著

岩波書店

軍国主義の時代に生を受け、「神の子」とされた明仁皇太子。敗戦後は価値観が急転換する中で「新生日本のホープ」として期待されるも、自身の運命に実存的な煩悶を抱き…。長年にわたる取材と膨大な史料をもとに描く評伝。

朝日新聞 2025/02/08

2024:7./ 476p
978-4-00-024555-5
¥3,520〔税込〕

比翼の象徴 明仁・美智子伝<中>　大衆の天皇制

井上 亮 著

岩波書店

明仁皇太子と正田美智子の「世紀の結婚」に国民は沸いた。それは守旧派勢力の反発を招くものだったが、「平民皇太子妃」の存在はやがて皇室の在り方に変化をもたらし…。長年にわたる取材と膨大な史料をもとに描く評伝。

朝日新聞 2025/02/08

2024:9./ 510p
978-4-00-024556-2
¥3,520〔税込〕

比翼の象徴 明仁・美智子伝<下>　平成の革命

井上 亮 著

岩波書店

天皇、皇后となった 2 人は、戦争被害国と災害被災地を訪問し、和解と被災者への慰労に努めた。高齢による体力の衰えで活動が難しくなったとき、明仁は退位の道を選び…。長年にわたる取材と膨大な史料をもとに描く評伝。

朝日新聞 2025/02/08

2024:11./ 610p
978-4-00-024557-9
¥3,960〔税込〕

無文字社会の歴史～西アフリカ・モシ族の事例を中心に～(岩波現代文庫 学術 60)

川田　順造 著

岩波書店

1960 年代から 70 年代前半に西アフリカ・モシ族を現地調査し、口頭伝承や太鼓ことばなどの豊かな音の世界や儀礼から無文字社会の歴史と構造を鮮やかに分析した本書は、日本の文化人類学の記念すべき達成である。

朝日新聞 2025/02/08

2001:7./ 366p

アフリカの歴史(角川ソフィア文庫 I417-1)

川田　順造 著

KADOKAWA

世界史の中にアフリカの歩みをどう位置づけるか。そして、口頭伝承の発達した無文字社会の歴史をいかに語るか。現地調査を重ねた文化人類学者が、日本の近代化をも参照して問う、文明論的スケールの通史。

朝日新聞 2025/02/08

2022:5./ 231p
978-4-04-400691-4
¥1,056〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

統計でウソをつく法～数式を使わない統計学入門～(ブルーバックス)

ダレル・ハフ 著

講談社

統計が読み書きの能力と同じぐらい必要になっている現在、「統計でだまされない」ためには、まず「統計でだます方法」を知ることが必要だ!だまされないためには、だます方法を知ることだ!

朝日新聞 2025/02/08

1983:4./ 223p
978-4-06-117720-8
¥1,012〔税込〕

ミーツ・ザ・ワールド(集英社文庫　か 44-9)

金原 ひとみ 著

集英社

腐女子の由嘉里が人生二度目の合コン帰りに出会ったのは、「私はこの世から消えなきゃいけない」と語る美しいキャバ嬢・ライだった。推しへの愛と三次元の恋。幸せを求める気持ちが向かう先は…。

朝日新聞 2025/02/08

2025:1./ 296p
978-4-08-744730-9
¥814〔税込〕

ジェリコの製本職人

ピップ・ウィリアムズ 著

小学館

第一次大戦下の英国オックスフォード。製本所の女工ペギーは、学問への思いを募らせながらも自分の境遇を理由に諦めていた。しかしある出会いをきっかけに、彼女の人生が動き出し…。「小さなことばたちの辞書」の姉妹編。

朝日新聞 2025/02/08

2024:12./ 554p
978-4-09-356747-3
¥3,520〔税込〕

ピクニック部

嶽本 野ばら 著

小学館

目つきの悪い先輩女子と可愛いもの好きの後輩男子が、ワンダーフォーゲル部でクーデターを起こし…。表題作のほか、フリマアプリを通じた友情を描く「ブサとジェジェ」など全 3 編を収録。気高き青春小説集。

朝日新聞 2025/02/08

2024:12./ 278p
978-4-09-386741-2
¥2,200〔税込〕

鯉姫婚姻譚(新潮文庫　ら-2-1)

藍銅 ツバメ 著

新潮社

若隠居した大店の跡取り息子・孫一郎は、人魚のおたつに求婚されてしまう。諦めさせるためにも、おたつにねだられるままに御伽話を語る孫一郎だったが…。生きる理の違う美しき人魚と、半人前な青年が築く愛と幸せの形を描く。

朝日新聞 2025/02/08

2025:2./ 293p
978-4-10-105591-6
¥693〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

街に躍ねる(ポプラ文庫 か 16-1)

川上　佐都 著
ポプラ社
高校生の達と小学 5 年生の晶は、仲良しな兄弟。物知りで絵が上手い達は、晶にとって最高の兄ちゃんだが、世間から見ると普通じゃないらしく…。温かさと切なさが胸を打つ、人と人との関わりの物語。

朝日新聞 2025/02/08

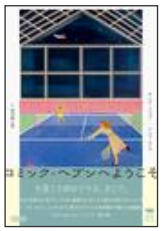
2025:2./ 238p
978-4-591-18519-3
¥792〔税込〕

文化を交叉させる～人類学者の眼～

川田 順造 著
青土社
声・身振り・絵解きが中心的伝達手段の、アフリカ無文字社会の日常。対照的に、過剰・多様な文字表現が駆使される日本の伝統。全く異なる文化空間を自在に往還し、“人間”とは誰か、“文化”とは何かを探求する。

朝日新聞 2025/02/08

2010:3./ 239p
978-4-7917-6516-4
¥2,420〔税込〕

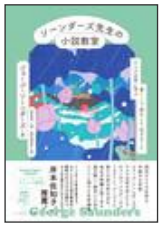


コミック・ヘブンへようこそ(IamIamIam)

パク・ソリョン 著
晶文社
今日も何事もなく生きていくために奮闘する、私たちの周りの特別でない人たち。SF、ホラー、コメディから、ほとんど妄想のような話まで、温かい視線と独特のユーモアで大きな楽しみと笑いを授ける短編集。

朝日新聞 2025/02/08

2024:11./ 189p
978-4-7949-7447-1
¥2,200〔税込〕



ソーンダーズ先生の小説教室～ロシア文学に学ぶ書くこと、読むこと、生きること～

ジョージ・ソーンダーズ／ジョージ・ソーンダーズ／柳田麻里／柳田麻里 著
フィルムアート社
チェーホフ、ツルゲーネフ、トルストイ、ゴーゴリ。ロシア文学の巨匠 4 人による 7 本の短編小説を、原文から新訳で全文収録。それらを通じ、物語の読み方と書き方、人生の意味に迫る、刺激に満ちた楽しい創作講座。

朝日新聞 2025/02/08

2024:9./ 598p
978-4-8459-2129-4
¥3,630〔税込〕

服罪～無期懲役判決を受けたある男の記録～(論創ノンフィクション 056)

木原育子 著
論創社
男性は、無期懲役の判決後、30 年余を刑務所で服役した。人生の半分以上を刑務所で過ごしながら、男性は何を思ったのか。なぜ人は罪を犯し、どう更生していくのか-。気鋭の新聞記者が、その謎を解き明かす。

朝日新聞 2025/02/08

2024:10./ 244p
978-4-8460-2324-9
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

文芸編集者、作家と闘う～I HAVE A LONG WAY TO GO～

山田裕樹 著

光文社

「編集者」となり、作家と、原稿と、40 年以上闘った。著者が造った 350 冊以上の本の中から、その作家のブレーク作、代表作、デビュー作などを選び、その本を造る過程で生まれた知られざるエピソードを描く。

朝日新聞 2025/02/08、読売新聞 2025/02/23

2024:12./ 254p
978-4-334-10516-7
¥2,750〔税込〕

アメリカ・イン・ジャパン～ハーバード講義録～(岩波新書　新赤版 2048)

吉見 俊哉 著

岩波書店

黒船来航、敗戦と占領、カルチャー。近代日本人の「アメリカ」との出会いを貫通してきたものとは。西へと拡張し続けたアメリカの歴史から説き起こし、日本人のアメリカとの出会いを論じる。ハーバード大学での講義の記録。

朝日新聞 2025/02/15

2025:1./ 286p
978-4-00-432048-7
¥1,166〔税込〕

藍を継ぐ海

伊与原 新 著

新潮社

ウミガメの卵を孵化させ、ひとりで育てようとする中学生。奈良の山奥でニホンオオカミに出会う Web デザイナー…。科学だけが気づかせてくれる大切な未来を描く、5 つの物語。『小説新潮』『週刊新潮』掲載を加筆・修正。

朝日新聞 2025/02/15

2024:9./ 268p
978-4-10-336214-2
¥1,760〔税込〕

風呂と愛国～「清潔な国民」はいかに生まれたか～(NHK 出版新書　729)

川端 美季 著

ＮＨＫ出版

日本人の「毎日風呂に入るのが当たり前」という感覚は、いったいどこからきたのか。西洋人が見た江戸庶民の入浴習慣から、精神の「潔白性」まで、風呂を通して見えてくる衛生と統治をめぐる知られざる日本近代史。

朝日新聞 2025/02/15

2024:10./ 266p
978-4-14-088729-5
¥1,078〔税込〕

ぼくの文章読本

荒川 洋治 著

河出書房新社

随筆家、編集者、文学賞の選考委員と、多彩な立場で活躍を続ける現代詩作家・荒川洋治。彼が生んだ 4000 編以上のエッセイから、「文章を書く」ことついて記した 55 編を選りすぐって収録する。

朝日新聞 2025/02/15

2024:11./ 234p
978-4-309-03924-4
¥2,475〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

はじまりのテレビ～戦後マスメディアの創造と知～

松山 秀明 著
人文書院
1950 年代～60 年代、放送草創期のテレビは無限の可能性に満ちた映像表現の実験場だった。番組、産業、制度、放送学などあらゆる側面から、初期テレビが生んだ創造と知を、膨大な資料をもとに検証する。

朝日新聞 2025/02/15

2024:3./ 554p
978-4-409-24159-2
¥5,500〔税込〕

いとしい服～ようふくとわたしのはなし～

おーなり　由子 著
大和書房
ちいさかった頃の服、母に作ってもらった服、おまもりのような服、友人たちが着ていた服、好きな人に会うための服…。著者が出会って通り過ぎていった、いとしい服のことを綴る。カラーイラストも満載。

朝日新聞 2025/02/15

2024:12./ 239p
978-4-479-67126-8
¥1,870〔税込〕

のみ歩きノート

牧野 伊三夫 著
筑摩書房
少し日差しが弱まってくると、頭のなかは夜の晩酌のことでいっぱいになる-。あらゆる酒、つまみ、酒場に真摯に向き合い、純に愉しむ画家による「のむ」を味わうためのエッセイ集。『POPEYE』連載を加筆修正。

朝日新聞 2025/02/15

2024:11./ 223p
978-4-480-81584-2
¥1,980〔税込〕

苦情はいつも聴かれない

サラ・アーメッド／竹内 要江／飯田 麻結 著
筑摩書房
組織内のハラスメント、性差別、人種差別に対して声を上げた人々は何を経験するか。大学に苦情を訴えた学生や教授陣など 60 名以上への調査をもとに、組織・制度・権力が苦情を阻止し無力化するメカニズムを解き明かす。

朝日新聞 2025/02/15

2024:11./ 555p
978-4-480-83727-1
¥3,190〔税込〕

へたな旅

牧野 伊三夫 著
亜紀書房
ふらり各駅電車で出かけ、街の銭湯でさっぱりしたら、気楽な酒場で一杯やる-。還暦を迎えた画家・牧野伊三夫が愛好する「酒・食・風呂」の悦楽を滋味ゆたかにつづる、しぶい旅の味わい方。

朝日新聞 2025/02/15

2024:11./ 253p
978-4-7505-1860-2
¥1,760〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

難民に冷たい国?ニッポン～支援と審査の現場から～

柳瀬 房子 著

慶應義塾大学出版会

多くの外国人がなぜ日本に来るのか、なぜ来ない(来られない)のか。何を求め、日本人はそれに応えられているのか。長らく難民支援に携わってきた著者が、日本の難民支援の歴史と現状、そして多文化共生に向けた課題を語る。

朝日新聞 2025/02/15

2024:12./ 336p
978-4-7664-2968-8
¥2,200〔税込〕

日本ローカル放送史～「放送のローカリティ」の理念と現実～

樋口 喜昭 著

青弓社

放送の胎動期から、地上アナログ放送終了デジタル化完了までの歴史を、ローカル放送の制度・組織・番組という視点から検証。放送のローカリティの理念と実態が乖離してきた実情を明らかにする。

朝日新聞 2025/02/15

2021:8./ 375p
978-4-7872-3493-3
¥3,300〔税込〕

ラジオの時代～ラジオは茶の間の主役だった～

竹山　昭子 著

世界思想社

日本モダニズム期に誕生したラジオとはどういうメディアであったのか?大正から昭和初期の天皇報道やオリンピック放送、ラジオ体操、戦後の占領政策との関わり等の分析を通して、日本のラジオが生み出したものを再検証する。

朝日新聞 2025/02/15

2002:7./ 352p
978-4-7907-0941-1
¥3,080〔税込〕

ピアノへの旅

坂本龍一 著

アルテスパブリッシング

坂本龍一はどんなふうにピアノと付き合ってきたのか。どんなピアノ音楽とともに育ってきたのか。ピアノとはどういう楽器か。音楽学者・伊東信宏と語り合う。音楽学者らとともに国立音楽大学を訪ね、ピアノ誕生の歴史を辿る。

朝日新聞 2025/02/15

2024:12./ 205p
978-4-86559-301-3
¥2,420〔税込〕

あたたかな手～なのはな整骨院物語～

濱野京子 著

偕成社

すこしでも誰かの痛みや苦しみをやわらげることができたら-。人に触れるのが苦手だった新人柔道整復師の春哉と整骨院の人々、そして地域ネコのマルがつむぐ優しい物語。

朝日新聞 2025/02/22

2025:1./ 205p
978-4-03-727490-0
¥1,650〔税込〕

天馬は空をゆく～金椛国駿風～(角川文庫　し 55-15)

篠原　悠希 著
KADOKAWA
金椛帝国の政府高官を父に持つ星天賜と、裕福な家のひとり息子・アヨウは、火薬の研究に勤しんでいた。試作の煙玉を街中で使った 2 人は、連続放火事件の犯人ではと疑われ、事件を調査する第 16 皇子・司馬澳飛に捕らえられ…。

朝日新聞 2025/02/22

2025:1./ 329p
978-4-04-115825-8
¥792〔税込〕

かりそめの星巡り

石沢 麻依 著
講談社
ドイツでの暮らしに故郷仙台の風景を重ね、愛する文学世界と過去からの声に耳を澄ませる…。デビュー作で芥川賞を受賞した作家の初エッセイ集。『河北新報』『日本経済新聞』連載他を単行本化。

朝日新聞 2025/02/22

2024:11./ 211p
978-4-06-537509-9
¥2,200〔税込〕

くらげのパポちゃん(講談社の創作絵本)

かこ さとし、中島 加名 著
講談社
祖父・かこさとしから、孫・中島加名へ受け継がれた平和への想い-。戦争に行く途中、南の海で亡くなった少年の父親のことを知ったくらげのパポちゃんは、父親の行方を探しに大海原へ…。没後見つかった未発表の原稿を絵本化。

朝日新聞 2025/02/22

2025:2./ 40p
978-4-06-537693-5
¥1,870〔税込〕

女形と針子(小学館文庫　小学館時代小説文庫 J か 04-1)

金子 ユミ 著
小学館
傍流歌舞伎一座「花房座」は東京の芝居小屋での興行が決まるが、人気の若女形の千多が失踪してしまう。いつもは裏方の仕事を担う姉の百多が、急遽、弟に化け舞台に立つことに。しかし、衣裳屋の職人・暁に正体が露見して…。

朝日新聞 2025/02/22

2023:11./ 329p
978-4-09-407308-9
¥803〔税込〕

先駆けの勘兵衛～書き下ろし長編戦国小説～(小学館文庫　小学館時代小説文庫 J ま 01-1)

松永 弘高 著
小学館
主が山崎の合戦で敗れ、命からがら逃げ延びた渡辺勘兵衛は、羽柴秀吉に拾われ、加藤虎之介らからきつい洗礼を浴びながらも、養嗣子秀勝のお付きを手に入れる。勘兵衛は藤堂高虎とともに、柴田勝家の軍勢を賤ケ岳で迎え撃ち…。

朝日新聞 2025/02/22

2025:2./ 521p
978-4-09-407426-0
¥1,034〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

舞台の上のジャポニスム～演じられた幻想の<日本女性>～(NHK ブックス 1247)

馬渕　明子 著

ＮＨＫ出版

世紀末パリ、オペラ座で演じられた NIPPON とはなんだったのか? ジャポニスムと日本文化の関係性を、19 世紀末パリで上演された舞台を素材に問い直し、ジャポニスムの実像を解き明かす。

朝日新聞 2025/02/22

2017:9./ 279p
978-4-14-091247-8
¥1,760〔税込〕

東京新大橋雨中図　新装版(文春文庫　す 6-18)

杉本 章子 著

文藝春秋

激動の時代に飲まれた人々の、心優しさとむごたらしさを噛みしめ描いた「東京新大橋雨中図」は、一世を風靡したが…。明治初年の東京を舞台に「最後の木版浮世絵師」小林清親の半生を描く。田辺聖子の解説も収録。

朝日新聞 2025/02/22

2025:1./ 370p
978-4-16-792326-6
¥968〔税込〕

クラウディオ・アバド～静かな革命家～

ヴォルフガング・シュライバー 著

春秋社

カラヤンに続くベルリン・フィルの芸術監督として一時代を築いた指揮者アバド。彼がともに仕事をした音楽家たちの証言にフォーカスし、その華々しいキャリアと、静かに燃える芸術の根源に迫る。ディスコグラフィも収録。

朝日新聞 2025/02/22

2025:1./ 354p
978-4-393-93612-2
¥3,630〔税込〕

教養の書

戸田山 和久 著

筑摩書房

教養とはそもそも何か。なぜ大切なのか。教養への道をさえぎるものは何であり、その道を進むためにどんな装置が必要なのか。学び生きるうえで大切なすべてを伝える入門講義。『ちくま』連載に書き下ろしを加えて単行本化。

朝日新聞 2025/02/22

2020:2./ 414p
978-4-480-84320-3
¥1,980〔税込〕

メアリ・シェリー～『フランケンシュタイン』から<共感の共同体>へ～

シャーロット・ゴードン 著

白水社

代表作「フランケンシュタイン」の作者、また 16 歳のころに詩人パーシー・シェリーと駆け落ちしたことで知られるメアリ・シェリー。小説家としての独創性、政治思想家としての真摯な態度など、彼女の作品と激動の生涯を辿る。

朝日新聞 2025/02/22

2024:12./ 224p
978-4-560-09144-9
¥2,420〔税込〕

エッシャー完全解読～なぜ不可能が可能に見えるのか～

近藤 滋 著
みすず書房
ありえない形にリアリティをもたせるエッシャーのだまし絵。彼はそのトリックの存在を生涯隠し通し、決して語らなかった。エッシャー・マジックを徹底的に掘り下げ、その秘密を解き明かす。

朝日新聞 2025/02/22

2024:12./ 208p
978-4-622-09731-0
¥2,970〔税込〕

<ロシア>が変えた江戸時代～世界認識の転換と近代の序章～(歴史文化ライブラリー　613)

岩﨑　奈緒子 著
吉川弘文館
江戸後期の日本が、ヨーロッパの先進性を認識したきっかけは、ロシアの脅威であった。急速に深まる世界研究の動向や、ヨーロッパに対峙する「鎖国」外交の成立の経緯をたどり、日本の近代化の土台が固まる様を描く。

朝日新聞 2025/02/22

2024:12./ 240p
978-4-642-30613-3
¥1,870〔税込〕

たいこどんどん

三浦太郎 著
ブロンズ新社
たいこ、たたいてみよう、どんどん。トランペットは、ぷっぷー。どんどん、ぷっぷー。ふえも加わり、ぴーひゃらぴーひゃら。どんどん、ぷっぷー、ぴーひゃらぴーひゃら…。どんどん音が連なっていく絵本。観音開きページあり。

朝日新聞 2025/02/22

2025:1./ 32p
978-4-89309-739-2
¥1,540〔税込〕

探検家

キャサリン・ランデル 著
ゴブリン書房
飛行機が墜落し、アマゾンに 4 人の子どもたちが取り残された。4 人は、自力でジャングルを生きのびなければならない。だが、彼らよりも前に、誰かがここにいた気配がして…。

朝日新聞 2025/02/22

2024:12./ 379p
978-4-902257-47-2
¥1,870〔税込〕

中学生から知りたいパレスチナのこと

岡真理／小山哲／藤原辰史 著
ミシマ社
世界の、とりわけ近代ヨーロッパの 500 年の歴史の諸矛盾が凝縮された「パレスチナ問題」。アラブ、ポーランド、ドイツを専門とする 3 人が、今パレスチナで起きているジェノサイドの暴力について考える。

朝日新聞 2025/02/22

2024:7./ 216p
978-4-911226-06-3
¥1,980〔税込〕

綾部仁喜全句集

綾部仁喜 著
ふらんす堂
石田波郷を師系とし、波郷の唱えた韻文精神を生涯をかけてつらぬいた綾部仁喜の全句集。既刊4句集に「俳句日記」「「沈黙」以後」「補遺「鶴」投句時代」を加えた2443句に、解題、年譜、初句・季語索引も収録。

朝日新聞 2025/02/23

2025:1./ 361p
978-4-7814-1711-0
¥8,800〔税込〕

大峯あきら全句集

大峯あきら 著
青磁社
「紺碧の鐘」「鳥道」など、昭和26年から平成26年までの句を収めた9冊の句集の全作品、及び第9句集刊行後に発表した作品から48句を厳選収録。中村雅樹による解説、年譜、季語索引、初句索引も掲載する。

朝日新聞 2025/02/23

2024:12./ 701p
978-4-86198-608-6
¥8,250〔税込〕

夜更けより静かな場所

岩井 圭也 著
幻冬舎
人生は簡単じゃない。でも、後悔できるのは、自分で決断した人だけだ。古書店で開かれる深夜の読書会で、男女6名の運命が動きだし…。瑞々しい群像劇を描く連作小説。『小説幻冬』連載を大幅改稿し、単行本化。

東京・中日新聞 2025/02/01

2024:10./ 343p
978-4-344-04370-1
¥1,980〔税込〕

カメオ

松永K三蔵 著
講談社
新倉庫建設の工程管理を任された高見。建築予定地の隣地に住む犬連れの男が何かと工事現場にクレームを入れ、勝手に朝礼にも参加するようになる。その男自前のヘルメットには「亀夫」と書かれていて…。『群像』掲載を書籍化。

東京・中日新聞 2025/02/02

2024:12./ 141p
978-4-06-537826-7
¥1,650〔税込〕

アーベド・サラーマの人生のある一日～パレスチナの物語～

ネイサン・スロール／宇丹 貴代実 著
筑摩書房
ヨルダン川西岸地区で、園児たちの乗ったバスが燃えた。壁、検問所、無関心に阻まれる救助活動。アーベドは息子を探して奔走する-。占領とはなにかを問う、悲劇のノンフィクション。

東京・中日新聞 2025/02/02、読売新聞 2025/02/16、日本経済新聞 2025/02/22

2025:1./ 331p
978-4-480-83729-5
¥2,640〔税込〕

東京裏返し<都心・再開発編>(集英社新書　1243)

吉見 俊哉 著

集英社

渋谷、下北沢、外苑前…。都心南部を歩き、かつての軍事施設の痕跡や、失われた川や暗渠を辿ることで、都市の構造を掘り起こす。誰も見たことのない「東京」が現れる、7 日間の街歩きガイド。『すばる』連載を大幅に加筆修正。

東京・中日新聞 2025/02/09

2024:12./ 350p
978-4-08-721343-0
¥1,188〔税込〕

セルフィの死

本谷 有希子 著

新潮社

フォロワー数を増やそうと常に死力を尽くしているミクル。何もかもうまくいかず七転八倒し、あらゆる希望が根絶やしになった時、ついに訪れた、バズりの先に見えた真実とは…。『新潮』掲載を単行本化。

東京・中日新聞 2025/02/09

2024:12./ 171p
978-4-10-301775-2
¥1,870〔税込〕

鬼谷子全訳注～中国最古の「策謀」指南書～

高橋 健太郎 著

草思社

中国戦国時代に活躍した「縦横家」による、いかに人を動かし物事を成し遂げるかについての教えが書かれた古典「鬼谷子」。現代語訳、書き下し文、原文、訳注、解説を掲載する。

東京・中日新聞 2025/02/09

2024:12./ 311p
978-4-7942-2754-6
¥2,420〔税込〕

友が、消えた

金城　一紀 著

KADOKAWA

高校生の頃、仲間たちと社会の不条理に立ち向かっていた大学生の南方は、同級生から「友達がいなくなった」と相談を受ける。あの頃の仲間たちはもういないが、胸に秘めていた本能を揺さぶられた南方は動き出すことを決意し…。

東京・中日新聞 2025/02/16

2024:12./ 231p
978-4-04-115534-9
¥1,760〔税込〕

課税と脱税の経済史～古今の(悪)知恵で学ぶ租税理論～

マイケル・キーン、ジョエル・スレムロッド 著

みすず書房

税制のよしあしを定める原則は、どの時代にもある。シュメールの粘土板、カリグラ帝の奇抜な税制から、パナマ文書で暴露された狡猾な租税回避、ブロックチェーン技術で可能になる税務まで、税金にまつわるエピソードを紹介。

東京・中日新聞 2025/02/16

2025:1./ 640p
978-4-622-09755-6
¥4,950〔税込〕

そこから先は別世界～妄想映画日記 2021-2023～

樋口　泰人 著

boid

コロナ禍での経済的打撃、友人たちの死、自身の病…。苦境の中で聞こえない声に耳を澄まし見えない何かに目を凝らし、いるはずのない何かとともに新たな「生」を生み出し続けた 3 年の記録。『boid マガジン』連載を書籍化。

東京・中日新聞 2025/02/16

2024:12./ 486p
978-4-9912391-4-4
¥4,180〔税込〕

図書館の魔女 高い塔の童心

高田 大介 著

講談社

商都一ノ谷には「高い塔の魔法使い」と呼ばれる老人タイキと孫娘マツリカがいた。タイキたちが海戦に備えて密談をする一方、マツリカは好物の海老饅頭の味が落ちたことを疑問に思い…。『メフィスト』掲載を書籍化。

東京・中日新聞 2025/02/22

2025:2./ 223p
978-4-06-538602-6
¥2,090〔税込〕

冬芽ファイル帳～かわいくておもしろい冬の植物たち～

鈴木 純 著

小学館

冬の乾燥と寒さから新芽を守る樹木の冬芽。植物観察家で植物生態写真家の著者が、これまでに撮り溜めてきた写真の中から厳選したユニークでかわいい冬芽 50 種と可憐な芽吹き 10 種を優しい語り口で紹介。

東京・中日新聞 2025/02/22

2024:10./ 191p
978-4-09-311578-0
¥1,760〔税込〕

イスラエルの自滅～剣によって立つ者、必ず剣によって倒される～(光文社新書　1343)

宮田律 著

光文社

民間人に多大な犠牲者を出し続けているハマスとイスラエルによる「ガザ戦争」。右傾化、軍国主義、ナショナリズム、国際的孤立…イスラエルはなぜ対話へと舵をきらずに平和が遠のいているのか。その根源と破滅的な展望を示す。

東京・中日新聞 2025/02/23

2025:1./ 254p
978-4-334-10543-3
¥1,034〔税込〕

君はなぜ北極を歩かないのか(わたしの旅ブックス　057)

荻田 泰永 著

産業編集センター

屹立する氷山、吹きすさぶ風、果てしなく続く白き氷原の中、12 人はただひたすらに歩き続ける-。北極冒険家と若者たちが挑んだ北極圏 600km 踏破の記録。隊員たちの振り返りも収録。

東京・中日新聞 2025/02/23

2024:11./ 414p
978-4-86311-425-8
¥1,760〔税込〕

節約を楽しむ～あえて今、現金主義の理由～(朝日新書　985)

林望 著

朝日新聞出版

キャッシュレスなんて、まっぴらだ! お金のあれこれを人任せにしない。自分の頭でしっかり考えたい-。あえて今、現金主義を貫く著者が、キャッシュレス生活・ポイ活の怖さを指摘し、安全確実な「令和の節約術」を公開する。

読売新聞 2025/02/02

2025:1./ 196p
978-4-02-295296-7
¥924〔税込〕

ただ君に幸あらんことを

ニシダ 著

KADOKAWA

大学受験期に自分が母から受けてきた酷い仕打ちを、今は 6 歳下の妹が受けている。一人暮らしの家に妹を避難させ、母との間に入って守ろうとするが…。表題作に「国民的未亡人」を併録。『小説野性時代』掲載を加筆修正。

読売新聞 2025/02/02

2025:1./ 221p
978-4-04-114658-3
¥1,760〔税込〕

ベージュ(新潮文庫　た-60-5)

谷川 俊太郎 著

新潮社

18 歳でデビューから 70 余年。第一線で活躍した詩人・谷川俊太郎がくりかえし言葉にしてきた、誕生と死。若さと老い。忘却の快感。そして、この世界の手触り…。長い道のりを経て結実した、珠玉の 31 篇を収録する。

読売新聞 2025/02/02

2024:12./ 124p
978-4-10-126627-5
¥506〔税込〕

最近

小山田 浩子 著

新潮社

夫が救急搬送された深夜の病院の待合室で思い出す、赤い猫を見ると死ぬという噂-。パンデミックにより様々な価値観が揺らいだ数年間の、ある平凡な夫婦と周りの人々の生活を描いた連作小説。『新潮』掲載を単行本化。

読売新聞 2025/02/02

2024:11./ 264p
978-4-10-333645-7
¥2,420〔税込〕

イノベーションの科学～創造する人・破壊される人～(中公新書　2831)

清水 洋 著

中央公論新社

将来への新しい希望であると同時に、人々のスキルや生活の基盤を壊す側面もあるイノベーション。創造する人、破壊される人の特徴など、「人」の観点から検討し、創造の促進は元より、破壊の打撃を軽減する方策を考察する。

読売新聞 2025/02/02

2024:11./ 264p
978-4-12-102831-0
¥1,012〔税込〕

京大思考～石丸伸二はなぜ嫌われてしまうのか～(宝島社新書　710)

鈴木 洋仁 著

宝島社

2024 年の東京都知事選挙で話題になった石丸伸二氏。独特の言い回しや質問返しで話題になった「石丸構文」の源流は京大の話法や思考法から来ているのではないか? その理由を、京大卒の社会学者が様々なアプローチで解説。

読売新聞 2025/02/02

2024:12./ 223p
978-4-299-06156-0
¥999〔税込〕

下町サイキック

吉本 ばなな 著

河出書房新社

「友おじさん、どうして人は色とかお金とかに目がくらむの?」 サイキック能力を持つ下町の中学生キヨカと、近所に住む友おじさんの、ささやかだけれどかけがえのない連帯を描く。note 掲載に書き下ろしを加える。

読売新聞 2025/02/02

2024:7./ 259p
978-4-309-03195-8
¥1,870〔税込〕

物語ることの反撃～パレスチナ・ガザ作品集～

リフアト・アルアライール 編

河出書房新社

2008 年 12 月～2009 年 1 月に、イスラエルがガザに向けて実施した大規模な軍事侵攻「キャストレッド作戦」を小説という形で記録。暴力と占領に物語ることで抵抗する、魂の作品全 23 篇を収録する。

読売新聞 2025/02/02

2024:12./ 264p
978-4-309-20911-1
¥2,992〔税込〕

彼女の名前は(ちくま文庫　ち 19-2)

チョ・ナムジュ／小山内 園子／すんみ 著

筑摩書房

セクハラにあった女性が闘い続ける理由とは? 地下 2 階の部屋に住む女子生徒の悩みとは? 映画化された「82 年生まれ、キム・ジヨン」の次作短編集。全 28 編を収録。著者メッセージなどを加えて文庫化。

読売新聞 2025/02/02

2025:1./ 284p
978-4-480-43998-7
¥946〔税込〕

感応グラン=ギニョル(創元 SF 文庫　SF う 1-1)

空木 春宵 著

東京創元社

昭和初期の浅草。身体に傷を抱えた少女たちばかりを集め、残酷な劇を演じさせる見世物一座に、容姿端麗で美しい声を持つ新人がやってきて…。表題作をはじめ、分かち合えない痛みと傷を抱えて生きる孤独な魂を描いた全 5 編。

読売新聞 2025/02/02

2024:12./ 439p
978-4-488-79901-4
¥1,100〔税込〕

アフリカ一攫砂金

小林慧 著
双葉社
自らの過ちがきっかけで妻の死に目にも会えず、一人娘とも疎遠になった経済新聞記者。職を辞した男は介護職を得て知り合った車椅子の元外務省官僚から、アフリカでの砂金の買い付けと輸入を依頼され…。

読売新聞 2025/02/02

2024:11./ 317p
978-4-575-24784-8
¥1,980〔税込〕

マンガでわかるカルロ・ロヴェッリの物理学

ルーカ・ポッツィ 著
山と渓谷社
相対性理論と量子論を統合する試みのひとつ「ループ量子重力理論」の世界的な権威、理論物理学者のカルロ・ロヴェッリ。その物理学と世界観をわかりやすく解説した、イタリアのマンガ「LOOPS」の全訳。

読売新聞 2025/02/02

2024:12./ 168p
978-4-635-35003-7
¥2,640〔税込〕

明代龍泉窯青磁の研究

柴田　圭子 著
吉川弘文館
中国浙江省・龍泉市周辺を中心に生産された龍泉窯青磁は、12〜16 世紀にかけて日本にも盛んに輸入された。首里城などのグスクや沖縄県内における近年の出土例を分析し、青磁の編年を構築。明代龍泉窯青磁の実態を解明する。

読売新聞 2025/02/02

2024:12./ 372p
978-4-642-08155-9
¥16,500〔税込〕

リアル・メイキング〜いかにして「神」は現実となるのか〜

ターニャ・M・ラーマン 著
慶應義塾大学出版会
「神」のような信仰の対象になる、目に見えない存在は、信者にとっていかにして「リアル」になるのか。そのメカニズムを福音派をはじめとする宗派へのフィールドワークをもとに、文化人類学的に考察する。

読売新聞 2025/02/02

2024:11./ 360p
978-4-7664-2977-0
¥3,520〔税込〕

光さす杜の声を聴く

逸見祥希 著
青幻舎
太陽光発電開発によって変わり果てた風景と、太陽光パネルと自然が織りなす「美しい景色」。研究者でもある写真家・逸見祥希が提示する、社会問題と写真表現の新たな関係性。「鳥の目」の視点からのカラー写真集。

読売新聞 2025/02/02

2024:12./ 95p
978-4-86152-980-1
¥4,950〔税込〕

書棚の一隅～西村賢太が愛した短篇～(銀河叢書)

杉山　淳 編
幻戯書房
私小説家・西村賢太の随筆集「誰もいない文学館」をはじめとする、西村自身が読み耽った文学作品をめぐる文章や発言をもとに構成したアンソロジー。大坪砂男「天狗」、嘉村礒多「足相撲」など明治・大正・昭和の 10 篇を収録。

読売新聞 2025/02/02

2025:1./ 252p
978-4-86488-315-3
¥3,740〔税込〕

ガザの光～炎の中から届く声～

リファト・アルアライール／アスマア・アブー・メジェド／シャハド・アブーサラーマ／バスマン・アッディラウィー／サーレム・アル＝クドゥワ／スハイル・ターハー／ヌール・ナイーム／モスアブ・アブー・トーハ／ドルガム・アブーサリーム／ユーセフ・M・アルジャマール／イスラア・ムハンマド・ジャマール 著
明石書店
燃やされているのは学校や病院だけではない。人々が、物語が、記憶そのものが焼かれているのだ。侵攻目前に書かれた記録から、私たちは何を聴き取るべきなのか。パレスチナ人作家たちが<未来>に向けて遺したメッセージ。

読売新聞 2025/02/02、朝日新聞 2025/02/15

2025:1./ 378p
978-4-7503-5854-3
¥2,970〔税込〕

「人は右、車は左」往来の日本史(朝日選書　1046)

近江俊秀 著
朝日新聞出版
人や乗り物、神仏は、どのように道路を通っていたのか。権力は道路整備を通して、どのように国家を治めたのか。文献史料、都城や鎌倉の道路遺構、故実書や絵図、日記などをもとに、道路利用から日本社会の特質を描き出す。

読売新聞 2025/02/02、日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 272p
978-4-02-263137-4
¥1,980〔税込〕

被爆者からあなたに～いま伝えたいこと～(岩波ブックレット　No.1048)

日本原水爆被害者団体協議会 著
岩波書店
原爆投下によってこの世の地獄と化した広島と長崎。日本原水爆被害者団体協議会を結成し、核兵器廃絶と原爆被害への国家補償を訴え続けてきた被爆者たちが、核兵器も戦争もない世界の実現を願い、次世代にメッセージを伝える。

読売新聞 2025/02/09

2021:7./ 88p
978-4-00-271048-8
¥748〔税込〕

当事者主権　増補新版(岩波新書　新赤版 2042)

中西 正司、上野 千鶴子 著
岩波書店
いずれすべての人々が「当事者」になる時代。障害者、女性、高齢者、子ども、性的少数者など社会的弱者が声をあげて社会をつくりかえてきた軌跡を紹介する。近年の変化を増補した新版。

読売新聞 2025/02/09

2024:11./ 336p
978-4-00-432042-5
¥1,364〔税込〕

小牧・長久手合戦～秀吉と家康、天下分け目の真相～(角川新書　K-471)

平山　優 著
KADOKAWA
織田家の内部分裂、賤ケ岳合戦を経て、小牧・長久手合戦が勃発。信長亡き後も織田の政権が続くのか、それとも家臣の秀吉が覇者となるのか…。気鋭の歴史学者が、史料を博捜し、新たな合戦像を明らかにする。

読売新聞 2025/02/09

2024:12./ 399p
978-4-04-082494-9
¥1,210〔税込〕

目には目を

新川　帆立 著
KADOKAWA
少年院で出会った 6 人の重罪犯。彼らは更生して社会に戻ったが、少年 B が密告して、娘を殺された遺族が少年 A を殺害した。かつての少年 6 人のうち、誰が被害者で、誰が密告者なのか? 『小説野性時代』連載を加筆修正。

読売新聞 2025/02/09

2025:1./ 307p
978-4-04-113380-4
¥1,870〔税込〕

叫び声(講談社文芸文庫)

大江 健三郎 著
講談社
現代を生きる孤独な青春の“夢”と“挫折”を鋭く追求し、普遍の“青春の意味”と“青春の幻影”を描いた秀作。

読売新聞 2025/02/09

1990:3./ 260p
978-4-06-196071-8
¥1,430〔税込〕

恋とか愛とかやさしさなら

一穂 ミチ 著
小学館
プロポーズされた翌日、恋人が盗撮で捕まった-。信じるとは、許すとは、愛するとは何かを問い、男と女の欲望のブラックボックスに迫る恋愛小説。『STORY BOX』掲載を大幅に加筆改稿し単行本化。

読売新聞 2025/02/09

2024:11./ 236p
978-4-09-386739-9
¥1,760〔税込〕

散るぞ悲しき～硫黄島総指揮官・栗林忠道～(新潮文庫)

梯 久美子 著
新潮社
水涸れ弾尽き、地獄と化した本土防衛の最前線・硫黄島。玉砕を禁じ、自らも名誉の自決を選ばず、部下達と敵陣に突撃して果てた彼の姿を、妻や子に宛てて書いた切々たる 41 通の手紙を通して描く感涙の記録。

読売新聞 2025/02/09

2008:7./ 320p
978-4-10-135281-7
¥737〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

天使は見えないから、描かない

島本 理生 著
新潮社
弁護士の永遠子は実の叔父と逢瀬を重ねている。夫が浮気相手を妊娠させたため離婚し、惰性で付き合った若い恋人とも別れてしまう。ようやく自らの叔父への歪な欲望に向き合った永遠子は…。『小説新潮』掲載を加筆修正。

読売新聞 2025/02/09

2025:1./ 251p
978-4-10-302033-2
¥1,870〔税込〕

わたしの人生(CREST BOOKS)

ダーチャ・マライーニ 著
新潮社
わたしは忘れない。日本で、9歳にしてもっとも死に近づいたときのことを。イタリアを代表する作家が、戦時下の日本での抑留体験を綴った回想録。警官による屈辱的な扱い、生命を脅かすほどの飢餓など封印していた過去を記す。

読売新聞 2025/02/09

2024:11./ 166p
978-4-10-590197-4
¥2,145〔税込〕

「支那哲学」の誕生～東京大学と漢学の近代史～

水野 博太 著
東京大学出版会
明治期の東京(帝国)大学とその周辺で展開された漢学および支那哲学に関連する制度・言説の変遷を追うほか、代表的支那哲学者であった東京帝国大学教授・服部宇之吉の思想形成を分析、戦前における支那哲学の実態を解明する。

読売新聞 2025/02/09

2024:11./ 324p
978-4-13-016052-0
¥8,140〔税込〕

同志少女よ、敵を撃て(ハヤカワ文庫 JA 1585)

逢坂 冬馬 著
早川書房
独ソ戦が激化する1942年、母をドイツ軍に惨殺され、赤軍の女性兵士に救われた少女セラフィマは、復讐のため、訓練学校で一流の狙撃兵になることを決意する。訓練を重ねた彼女は、やがてスターリングラードの前線へ…。

読売新聞 2025/02/09

2024:12./ 601p
978-4-15-031585-6
¥1,210〔税込〕

菅原伝授手習鑑(河出文庫 古典新訳コレクション み 36-1 31)

河出書房新社
菅原道真の恩義を受けた三つ子、梅王丸・松王丸・桜丸が、それぞれの主君への忠義とのあいだで葛藤し…。社会の矛盾や理不尽を緻密な構成で描き、歌舞伎や文楽で今も愛される名作浄瑠璃を、血の通った名訳で綴る。

読売新聞 2025/02/09

2024:12./ 269p
978-4-309-42153-7
¥880〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

赤い小馬/銀の翼で～スタインベック傑作選～(光文社古典新訳文庫 KA ス 4-1)

ジョン・スタインベック 著

光文社

農家の少年が動物の生と死を目の当たりにする自伝的中篇「赤い小馬」、綿摘みの一家との朝食場面を描いた「朝めし」などのほか、2014 年に再発見された幻の掌編「銀の翼で」を本邦初訳として掲載。全 8 編を収録した傑作選。

読売新聞 2025/02/09

2024:10./ 410p
978-4-334-10468-9
¥1,364〔税込〕

世界で一番美しい工具図鑑

セオドア・グレイ 著

創元社

人とモノをつなぎ世界を豊かにしてゆく工具。ハンマーから、標的打ち工具、切削工具、ドリル、レンチ、加熱工具、ドライバー、測定用具、クランプまで、118 種類の工具を美しい写真とともに紹介する。

読売新聞 2025/02/09

2024:12./ 255p
978-4-422-50004-1
¥4,950〔税込〕

イスラームからお金を考える(ちくまプリマー新書　476)

長岡 慎介 著

筑摩書房

イスラームには利子の禁止や喜捨の義務など信仰に基づいた経済の仕組みがある。世界の金融危機にも揺るがなかったイスラーム経済を紹介し、金融資本主義を乗り越えるためにそこから何を学べるのかを考える。

読売新聞 2025/02/09

2024:12./ 185p
978-4-480-68507-0
¥924〔税込〕

たいせつなこと

マーガレット・ワイズ・ブラウン 著

フレーベル館

1949 年にアメリカで出版されて以来よみつがれてきた名作を、半世紀の時を超えていま、こどもたちに。たいせつなことはなにかを、やさしく詩的な文章で語りかけます。日本初紹介。

読売新聞 2025/02/09

2001:9./ 24p
978-4-577-02288-7
¥1,320〔税込〕

苦悶する中央銀行～金融政策の意図せざる結果～

ラグラム・ラジャン 著

慶應義塾大学出版会

非伝統的金融政策で経済の安定を図る現代の中央銀行。インフレのコントロールに苦しみ、金融システムは不安定な状態にある。世界金融危機を警告した経済学者が、中央銀行が本来の役割を越えて肥大化することに警鐘を鳴らす。

読売新聞 2025/02/09

2024:10./ 182p
978-4-7664-2990-9
¥2,200〔税込〕

自転車～人類を変えた発明の 200 年～

ジョディ・ローゼン 著

左右社

自転車ブームを支えた植民地下コンゴのゴム農園、イギリス軍を苦しめたボーア軍の自転車部隊…。自転車をめぐる言説、文化、社会の様々な側面を論じ、自転車の 200 年の歴史と現代の世界で果たしている役割を解き明かす。

読売新聞 2025/02/09

2025:1./ 520p
978-4-86528-451-5
¥4,950〔税込〕

地方財政の新しい地平～「人と人のつながり」の財政学～(現代自治選書)

森　裕之 著

自治体研究社

「「人と人のつながり」を公共政策の柱に据え、そこへ向けた行財政の制度と実践を推進すること」が、これからの地方自治体のミッション。各地の福祉・教育・まちづくりなどの実践を取り上げ、地方財政の新しい地平を示す。

読売新聞 2025/02/09

2024:11./ 185p
978-4-88037-776-6
¥1,980〔税込〕

へいわとせんそう

ブロンズ新社

「へいわのボク」と「せんそうのボク」では、なにが変わるのだろう。比べてみると、平和と戦争の違いが見えてくる。谷川俊太郎の言葉と Noritake の絵による、これまでにない平和絵本。

読売新聞 2025/02/09

2019:3./ 32p
978-4-89309-657-9
¥1,320〔税込〕

雪(岩波文庫　緑 124-2)

中谷　宇吉郎 著

岩波書店

天然雪の研究から出発し、やがて世界に先駆けて人工雪の実験に成功して雪の結晶の生成条件を明らかにするまでを懇切に語る。その語り口には、科学の研究とはどんなものかを知って欲しいという「雪博士」中谷の熱い想いがみなぎっている。

読売新聞 2025/02/16

1994:10./ 182p
978-4-00-311242-7
¥627〔税込〕

力道山～「プロレス神話」と戦後日本～(岩波新書　新赤版 2046)

斎藤 文彦 著

岩波書店

外国人レスラーと激闘を繰り広げ、戦後日本を熱狂させ、テレビの発展と共に国民的ヒーローとなった力道山。神話に包まれたその実像とは。そして時代は彼に何を仮託したのか。長年の取材の蓄積と膨大な資料を駆使して描き出す。

読売新聞 2025/02/16

2024:12./ 254p
978-4-00-432046-3
¥1,056〔税込〕

ジャーニー・オブ・ホープ～被害者遺族と死刑因家族の回復への旅～(岩波現代文庫　社会 350)

坂上 香 著
岩波書店
殺人事件の被害者遺族と死刑囚の家族が、ともに旅をし、語り合い、体験を共有する-。死刑を宣告された少年たちの背景、旅に集う人々の心の葛藤を丹念なインタビューで綴る。参加者たちのその後のエピソードを加えて文庫化。

読売新聞 2025/02/16

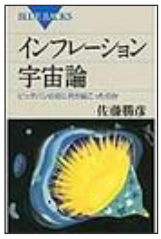
2024:12./ 398p
978-4-00-603350-7
¥1,573〔税込〕

ペッパーズ・ゴースト(朝日文庫　い 83-2)

伊坂幸太郎 著
朝日新聞出版
中学国語教師の檀は、ある条件下で他人の明日が少しだけ観える特殊能力を持つ。彼は生徒から、奇妙なコンビが暴れ回る小説原稿を渡される。小説内の 2 人組「ネコジコハンター」とは? エンターテインメント長編。

読売新聞 2025/02/16

2024:12./ 422p
978-4-02-265178-5
¥946〔税込〕



インフレーション宇宙論～ビッグバンの前に何が起こったのか～(ブルーバックス)

佐藤 勝彦 著
講談社
「神の一撃」を必要とするビッグバン理論から、物理学の言葉だけで記述できる「インフレーション理論」へ。理論の提唱者が大づかみに、かみくだいて、宇宙創生の驚異を解き明かした入門書。

読売新聞 2025/02/16

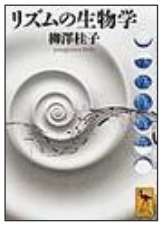
2010:9./ 192p
978-4-06-257697-0
¥990〔税込〕

認知バイアス～心に潜むふしぎな働き～(ブルーバックス　B-2152)

鈴木 宏昭 著
講談社
見ているはずのものが見えていない。確かだと思っている記憶が違っている…。誰もがよく感じる、このような認知のずれは、なぜ起こるのか。「認知バイアス」のメカニズムを、身近な事例を挙げながら詳しく解説。

読売新聞 2025/02/16

2020:10./ 262p
978-4-06-521951-5
¥1,100〔税込〕



リズムの生物学(講談社学術文庫　2711)

柳澤 桂子 著
講談社
地球上のあらゆる生物は、天体の動きに同調しながら、体内でリズムを奏でている。小さな細胞が分裂を繰り返すメカニズムとは? “繰り返し”が脳に与える効用とは? 原子の世界から宇宙現象まで、「リズムの謎」を探る。

読売新聞 2025/02/16

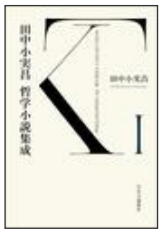
2022:3./ 196p
978-4-06-527067-7
¥946〔税込〕

遠くまで歩く

2025:1./ 364p
978-4-12-005876-9
¥2,090〔税込〕

柴崎友香 著
中央公論新社
コロナウィルス感染拡大の中、作家のヤマネはあるオンライン講座を担当することに。PC を通して語られる受講生たちの記憶、忘れられない風景や言葉。人と人との新たな繋がりを描く長篇小説。『読売新聞』夕刊連載を単行本化。

読売新聞 2025/02/16

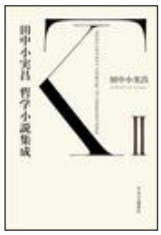


田中小実昌哲学小説集成<1>

2025:1./ 377p
978-4-12-005879-0
¥3,960〔税込〕

田中小実昌 著
中央公論新社
田中小実昌の晩年の代表的シリーズとなった「哲学小説」を集成。1 は、「カント節」「モナドは窓がない」を収録する。巻末に柄谷行人、平岡篤頼、井上忠との対談も掲載。

読売新聞 2025/02/16



田中小実昌哲学小説集成<2>

2025:1./ 376p
978-4-12-005880-6
¥3,960〔税込〕

田中小実昌 著
中央公論新社
田中小実昌の晩年の代表的シリーズとなった「哲学小説」を集成。2 は、「なやまない」「ないものの存在」を収録する。巻末に池内紀+堀江敏幸、保坂和志+石川忠司の対談も掲載。

読売新聞 2025/02/16

死の虫～ツツガムシ病との闘い～(中公文庫　こ 36-3)

2024:12./ 311p
978-4-12-207589-4
¥990〔税込〕

小林照幸 著
中央公論新社
戦前の新潟・秋田・山形の 3 県で、毎夏多くの犠牲者を出した謎の風土病。北里柴三郎も解明できなかった難問に、命と名誉を懸けて挑んだ日本人医学者たちがいた…。ツツガムシ病解明の人間ドラマを描いたノンフィクション。

読売新聞 2025/02/16

戦後日本の貧困と社会保障～社会調査データの復元からみる家族～

2024:12./ 324p
978-4-13-051149-0
¥6,380〔税込〕

相澤　真一、渡邉　大輔、石島　健太郎、佐藤　香 編
東京大学出版会
戦後日本の貧困の実態、その貧困から脱出する方法の模索-。半世紀以上前の社会調査の個票をデジタル復元し、その統計分析と各種史資料とを検討することにより、戦後期日本社会の世帯・家族と福祉の実像を再構成する。

読売新聞 2025/02/16

MARUZEN-YUSHODO

ブリタニカビジュアル大図鑑～BRITANNICA BOOKS～

アンドリュー・ペティ、コンラッド・キルティ・ハーパー 編
ＮＨＫ出版
サイエンスとアートが融合した、児童向けビジュアル図鑑。宇宙・地球・生物・人体・現代社会などの知識や情報を、データを絵に変換した「インフォグラフィック」を駆使し、一目でわかるように解説する。

読売新聞 2025/02/16

2024:11./ 335p
978-4-14-036160-3
¥5,940〔税込〕

上弦の月を喰べる獅子<上>(ハヤカワ文庫 JA 1026)

夢枕　獏 著
早川書房
螺旋蒐集家と岩手の詩人の、究極の問を求める旅を描く、これは天についての物語である

読売新聞 2025/02/16

2011:3./ 423p
978-4-15-031026-4
¥1,034〔税込〕

上弦の月を喰べる獅子<下>(ハヤカワ文庫 JA 1027)

夢枕　獏 著
早川書房
読売新聞 2025/02/16

2011:3./ 446p
978-4-15-031027-1
¥1,034〔税込〕

捏造の科学者～STAP 細胞事件～(文春文庫　す 24-1)

須田 桃子 著
文藝春秋
誰が、何を、いつ、なぜ、どのように捏造したのか? 笹井芳樹 CDB 副センター長をはじめ、事件の当事者に深く入ってスクープを連発した毎日新聞記者が、STAP 細胞事件の全貌を伝える。

読売新聞 2025/02/16

2018:10./ 478p
978-4-16-791165-2

三月一一日のシューベルト～音楽批評の試み～

舩木篤也 著
音楽之友社
「音楽」からの視点と、「音楽とは異なる世界」からの視点を交差させることで、音楽の新たな魅力や人生の味わい、世界への問題意識を浮かび上がらせる。『レコード芸術』連載を全面的に改稿し書籍化。

読売新聞 2025/02/16

2024:12./ 303p
978-4-276-21014-1
¥2,860〔税込〕

トイレと鉄道～ウンコと戦ったもうひとつの 150 年史～(交通新聞社新書 183)

鼠入 昌史 著
交通新聞社
今では快適に使える列車トイレ。その歴史は人々の苦悩の連続だった! 列車で危機を迎えた最初の日本人、たれ流しの実態を暴いた「国鉄糞尿譚」、吹き荒れる「黄害」…。150 年にわたるトイレと鉄道の物語。

読売新聞 2025/02/16

2024:12./ 199p
978-4-330-06224-2
¥1,100〔税込〕

果てしない余生～ある北魏宮女とその時代～

羅 新 著
人文書院
皇太子の生母が死を賜る「子貴母死」の制は、後宮だけでなく、王朝全体を揺るがす政変へと繋がっていた。平城皇宮のひとりの宮女の生涯と北魏政治の実像を、正史と墓誌を駆使して描く。石刻史料の拓本図版や系図も多数掲載。

読売新聞 2025/02/16

2024:12./ 369p
978-4-409-51105-3
¥5,500〔税込〕

神経回路網の数理～脳の情報処理様式～(ちくま学芸文庫　Math & Science ア 35-3)

甘利 俊一 著
筑摩書房
複雑な神経回路網によって担われる最高度の情報処理システム「脳」に、情報の基本原理の発現を見たことで、数理脳科学は生まれた。AI の隆盛を導き、同時に脳科学研究の核心的理論を生み出した理工学者による記念碑的著作。

読売新聞 2025/02/16

2024:1./ 518p
978-4-480-51229-1
¥1,760〔税込〕

老い方がわからない

門賀美央子 著
双葉社
どうすれば老害と言われず、若さにしがみつく醜態をさらさず、年相応の分別と年齢以上の価値を持つ老人になれるのか-。健やかで美しい老い方を追求したユーモア溢れるポジティブエッセイ。『COLORFUL』連載を書籍化。

読売新聞 2025/02/16

2024:11./ 251p
978-4-575-31916-3
¥1,870〔税込〕

この世界の片隅に<上>(ACTION COMICS)

こうの　史代 著
双葉社
平成の名作・ロングセラー「夕凪の街 桜の国」の第 2 弾ともいうべき本作。戦中の広島県の軍都、呉を舞台にした家族ドラマ。主人公、すずは広島市から呉へ嫁ぎ、新しい家族、新しい街、新しい世界に戸惑う。しかし、一日一日を確かに健気に生きていく…。

読売新聞 2025/02/16

2008:1./ 142p
978-4-575-94146-3
¥712〔税込〕

この世界の片隅に<中>(ACTION COMICS)

2008:7./ 138p
978-4-575-94179-1
¥712〔税込〕

こうの　史代 著
双葉社
すずも北條家に嫁ぎあくせくしてる間に、ようやく呉の街にも馴染んできた。しかし戦況は厳しくなり、配給も乏しく日々の生活に陰りが…。そして昭和20年3月、ついに呉の街にも大規模な空襲が!戦争という容赦のない暗雲の中、すずは、ただひたすら日々を誠実に生きていく。

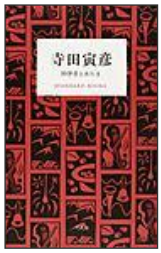
読売新聞 2025/02/16

この世界の片隅に<下>(ACTION COMICS)

2009:4./ 148p
978-4-575-94223-1
¥712〔税込〕

こうの　史代 著
双葉社
昭和の戦中。広島市から軍都呉市に嫁いだすずは、不器用ながら北條家に徐々に溶け込み日々を過ごす。やがて戦争の暗雲が周囲を色濃く染めていく。大空襲、原爆投下、終戦。歴史の酷い歯車が一人の女性の小さな世界をゆがませていく。そして…。読む者の心を揺さぶる最終巻!

読売新聞 2025/02/16



寺田寅彦～科学者とあたま～(STANDARD BOOKS)

2015:12./ 219p
978-4-582-53151-0
¥1,540〔税込〕

寺田　寅彦 著
平凡社
科学的精神と芸術的センスが融合した珠玉の随筆を生んだ寺田寅彦。「科学者とあたま」「読書の今昔」「物売りの声」など、“ほんものの知性”が綴った随筆を収録。寺田寅彦をもっと知るためのブックガイドも掲載。

読売新聞 2025/02/16

近代日本思想史大概

2024:11./ 512p
978-4-588-62545-9
¥4,400〔税込〕

飯田 泰三 著
法政大学出版局
明治維新から自由民権運動、戦争とファシズムを経て、戦後民主主義へ。福澤諭吉、吉野作造らの著述を通し、近代化に向かう国家と思想の大きなうねりを概観する。1998年「かわさき市民アカデミー」の講座をもとに単行本化。

読売新聞 2025/02/16

星の教室

2025:2./ 252p
978-4-7584-1478-4
¥1,760〔税込〕

髙田 郁 著
角川春樹事務所
中学の卒業証書を受け取っていないさやか。義務教育さえまともに終えていないという枷が、彼女を生き辛くさせていた。しかし、20歳の春、夜間中学に入学する。仲間たちに支えられて過ごす日々が、さやかの心を解きほぐし…。

読売新聞 2025/02/16

冤罪～なぜ人は間違えるのか～(インターナショナル新書 151)

西 愛礼 著
集英社インターナショナル
なぜ冤罪事件が繰り返し起きるのか。<冤罪弁護士>として活躍する元裁判官が、司法の落とし穴と最新の心理学研究に基づいて冤罪のメカニズムを解き明かし、その防止策を考える。

読売新聞 2025/02/16

2024:12./ 283p
978-4-7976-8151-2
¥1,056〔税込〕

キリン解剖記

郡司　芽久 著
ナツメ社
キリンが亡くなりました-。クリスマスも正月も、訃報で予定をキャンセルし…。これまでに 30 頭のキリンを解剖し、「8 番目の“首の骨”」を見つけた著者が、キリンとの出会い、探求、発見の日々を綴る。

読売新聞 2025/02/16

2019:7./ 215p
978-4-8163-6679-6
¥1,320〔税込〕

アンダーグラウンド(講談社文庫)

村上 春樹 著
講談社
1995 年 1 月の阪神大震災につづいて日本中を震撼させたオウム真理教団による地下鉄サリン事件。この事件を境に日本人はどこへ行こうとしているのか、62 人の関係者にインタビューを重ね、村上春樹が真相に迫るノンフィクション書き下ろし。

読売新聞 2025/02/16、読売新聞 2025/02/23

1999:2./ 777p
978-4-06-263997-2
¥1,320〔税込〕

庭の話

宇野 常寛 著
講談社
ケア、民藝、パターン・ランゲージ、中動態、そして「作庭」。さまざまな分野の知見を総動員してプラットフォームでも、コモンズでもない「庭」と呼ばれるあらたな公共空間のモデルを構想する。『群像』連載に加筆・改稿。

読売新聞 2025/02/16、毎日新聞 2025/02/22

2024:12./ 365p
978-4-06-537791-8
¥3,080〔税込〕

陸軍作戦部長田中新一～なぜ参謀は対米開戦を叫んだのか?～(文春新書 1482)

川田 稔 著
文藝春秋
対米戦前夜、参謀本部で強硬に開戦を唱え、同時に対ソ戦を構想し、関東軍特殊演習を実施した陸軍作戦部長・田中新一。だが一般にはその存在はほとんど知られていない。太平洋戦争への道を主導した田中の思想と行動を検討する。

読売新聞 2025/02/16、毎日新聞 2025/02/22

2025:1./ 279p
978-4-16-661482-0
¥1,210〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

この夏の星を見る

辻村　深月 著
KADOKAWA
コロナ禍で登校や部活が制限される中、しかし出会いもあった。オンライン会議を駆使して、全国で繋がっていく天文部の中高生たち。「スターキャッチコンテスト」開催の次に彼らが狙うのは…。『北海道新聞』等連載を単行本化。

読売新聞 2025/02/23

2023:6./ 483p
978-4-04-113216-6
¥2,090〔税込〕

失楽園<上>(角川文庫)

渡辺　淳一、角川書店装丁室 著
角川書店
出版社に勤める久木は、閑職の資料整理室勤務となり悶々とした日々を送っていた。ある日、市民講座で書道講師をしている凛子と出会う。二人は互いに妻や夫のある身でありながら、惹かれ合い逢瀬を重ねていく。

読売新聞 2025/02/23

2004:1./ 323p
978-4-04-130737-3
¥607〔税込〕

失楽園<下>(角川文庫)

渡辺　淳一、角川書店装丁室 著
角川書店
久木と凛子、2 人の関係はやがて互いの家族の知るところとなる。己れの心に従い、育んだ"絶対愛"を純粋に貫こうとする 2 人。その行きつく先にあるものは……。

読売新聞 2025/02/23

2004:1./ 308p
978-4-04-130738-0
¥607〔税込〕

ブラジル蝶の謎(講談社文庫)

有栖川 有栖 著
講談社
国名シリーズ第 3 弾！

読売新聞 2025/02/23

1999:5./ 333p
978-4-06-264571-3
¥726〔税込〕

侍たちの沃野～大久保利通最後の夢～(集英社文庫　歴史時代　う 18-12)

植松 三十里 著
集英社
明治 10 年、内務卿大久保利通は、猪苗代湖の水を郡山へ流す安積疏水事業を提案。大分出身の南を責任者にするが、癖のある男たちが次々と登場して紛糾。さらに大久保暗殺事件が起こり…。日本初の大土木事業を描いた歴史小説。

読売新聞 2025/02/23

2024:12./ 342p
978-4-08-744727-9
¥968〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

はからずも人生論～往復書簡集～(小学館文庫　さ 38-3)

佐藤 愛子／小島 慶子 著

小学館

悩み、愚痴、怒り。年の差 50 歳の真剣勝負-。1923 年生まれの佐藤愛子と、1972 年生まれの小島慶子が、夫婦、世の中、人生について手紙でやり取りする。小島慶子による後日談も収録。

読売新聞 2025/02/23

2025:1./ 205p
978-4-09-407419-2
¥660〔税込〕

図書館を建てる、図書館で暮らす～本のための家づくり～

橋本 麻里／山本 貴光 著

新潮社

約 5 万冊の蔵書を収める家<森の図書館>。2 人の施主が、普請のプロセスや、そこで過ごす中で考えた事を綴り、デジタルだけでは実現できない、「本のある空間」の効用を探る。書架写真、建築家・三井嶺の寄稿、図面等も収録。

読売新聞 2025/02/23

2024:12./ 240p
978-4-10-355991-7
¥3,630〔税込〕

転売ヤー闇の経済学(新潮新書　1067)

奥窪 優木 著

新潮社

需要が供給を上回ると見れば、品目を問わず大量に買い占めて、高額で売り飛ばす「転売ヤー」。彼らはどれぐらいの利益を得ているのか。あらゆる手口でひと儲けを狙う転売ヤーに密着し、驚愕のカラクリをレポートする。

読売新聞 2025/02/23

2024:11./ 190p
978-4-10-611067-2
¥946〔税込〕

タラント(中公文庫　か 61-6)

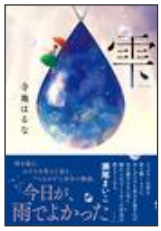
角田光代 著

中央公論新社

周囲の人々が“意義ある仕事”に邁進する中、心に深傷を負い、無気力な中年になったみのり。不登校の甥の手で、心にふたをした義足の祖父の過去が繙かれる時、みのりの心は予想外の道へと走りはじめ…。心揺さぶる再生の物語。

読売新聞 2025/02/23

2024:8./ 566p
978-4-12-207545-0
¥946〔税込〕



雫

寺地 はるな 著

ＮＨＫ出版

中学の卒業制作で出会った 4 人の同級生たち。30 年後、ビルの取り壊しに伴ってひとつのジュエリーリフォーム会社が営業を終え、4 人は再会し…。日常のささいな不安や違和感を丁寧にすくい取る、“つながり”と再生の物語。

読売新聞 2025/02/23

2024:11./ 286p
978-4-14-005748-3
¥1,870〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

ポストコロナの SF(ハヤカワ文庫 JA 1481)

日本ＳＦ作家クラブ 編
早川書房
この先に待ち受けているのはワクチンの普及による収束か、あるいはウイルスとの苛酷な共存か-。まさに新型コロナウイルス禍の最中にある 19 名の作家の想像力が、ポストコロナの世界を描く書き下ろし SF アンソロジー。

読売新聞 2025/02/23

2021:4./ 535p
978-4-15-031481-1
¥1,166〔税込〕

代官山コールドケース(文春文庫 さ 43-7)

佐々木 譲 著
文藝春秋
川崎の女性殺人事件の現場で、17 年前の代官山・カフェ店員殺人事件の遺留 DNA が採取される。事件の真犯人を確保するよう、警視庁・特命捜査対策室のエース・水戸部に密命が下り…。特命捜査対策室シリーズ第 2 弾。

読売新聞 2025/02/23

2015:12./ 509p
978-4-16-790505-7
¥803〔税込〕

音楽隊に「敬礼っ!!」～元隊長が語る自衛隊音楽隊の真骨頂～

樋口 孝博 著
音楽之友社
自衛隊音楽隊の隊長(指揮者)としてさまざまな経験をしてきた著者が、退官後に音楽隊の真の姿をまとめる。防衛省の守秘義務に抵触しない範囲で、隊員でなければ知りえない数々のエピソードを紹介する。

読売新聞 2025/02/23

2024:11./ 165p
978-4-276-20025-8
¥1,980〔税込〕

推し、燃ゆ(河出文庫 う 17-2)

宇佐見 りん 著
河出書房新社
高校生のあかりは、アイドル上野真幸を解釈することに心血を注ぎ、学校も家族もバイトもうまくいかない毎日をなんとか生きている。そんなある日、真幸がファンを殴って炎上し…。時代を映す青春文学。

読売新聞 2025/02/23

2023:7./ 165p
978-4-309-41978-7
¥638〔税込〕

吉永進一セレクション<第 1 巻> 霊的近代の興隆

栗田英彦 編
吉永進一 著
国書刊行会
吉永進一の著作を集成。第 1 巻は、科学と宗教のはざまに生み出され続ける流体説の変遷と拡散を描写した論考、霊術・民間精神療法史研究の確立を目指した論考、知識人が集うカルト的場に関する論考などを収録。編者解説も掲載。

読売新聞 2025/02/23

2024:12./ 523p
978-4-336-07553-6
¥3,960〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

吉永進一セレクション<第 2 巻>　洗脳・陰謀論・UFO カルト

横山茂雄 編
吉永進一 著
国書刊行会
吉永進一の著作を集成。第 2 巻は、近現代日本のオカルト思想の概略を実体験を交えてたどる論考・インタビューをはじめ、洗脳、虚偽記憶、陰謀論、UFO カルトに関する論考を収録する。編者解説も掲載。

読売新聞 2025/02/23

2024:12./ 425p
978-4-336-07554-3
¥3,960〔税込〕

ヤンキーと地元～解体屋、風俗経営者、ヤミ業者になった沖縄の若者たち～ (ちくま文庫　う 49-1)

打越 正行 著
筑摩書房
沖縄のヤンキーたちはどのような現実を生きているのか。生きていくために建設業や性風俗業、ヤミ仕事に就いた若者たちと 10 年以上つき合った社会学者による調査の記録。地元社会の過酷な掟を描く。補論を付して文庫化。

読売新聞 2025/02/23

2024:11./ 365p
978-4-480-43984-0
¥990〔税込〕

世界は私たちのために作られていない

ピート・ワームビー 著
東洋館出版社
無意味に複雑な「暗黙の了解」、眩しすぎる照明や騒音、みんなが簡単そうにこなすことができない、毎日過ごすだけで疲れ果てる…。34 歳で自閉スペクトラム症と診断された元教師が、ASD 者の世界の見え方・歩き方を伝える。

読売新聞 2025/02/23

2024:11./ 319p
978-4-491-05624-1
¥2,475〔税込〕

N の逸脱

夏木　志朋 著
ポプラ社
ペットショップでアルバイトをする金本篤は、売れ残ったトカゲを店長に譲ってくれと頼む。提示された金額はあまりに高額で、「ある男」を強請って金を得ようとするが…。3 つの物語。『WEB asta*』連載を単行本化。

読売新聞 2025/02/23

2025:1./ 276p
978-4-591-18405-9
¥1,760〔税込〕

韓国とつながる～How Does Japan Redefine What Korea Means?～

浅羽 祐樹 編
有斐閣
韓国に対してどのような間合いをとるのがふさわしいのか。政治・外交・経済・社会・文化・宗教・言語など、さまざまな視点から韓国の現在地を提示する。韓国とつながるきっかけとなる書。

読売新聞 2025/02/23

2024:12./ 318p
978-4-641-14955-7
¥2,640〔税込〕

北朝鮮を解剖する～政治・経済から芸術・文化まで～(慶應義塾大学東アジア研究所叢書)

磯崎 敦仁 著
慶應義塾大学出版会
謎に包まれた国、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)。政治・外交・経済はもちろん、文学・音楽・映画・言語まで、多角的なアプローチで、その知られざる姿を明らかにする。

読売新聞 2025/02/23

2024:11./ 240p
978-4-7664-2996-1
¥3,850〔税込〕

刑務所に回復共同体をつくる

毛利 真弓 著
青土社
対等性と自由が尊重された集団の中で対話を行い、個々人が抱える問題や症状からの回復を目指す「回復共同体(TC)」。島根県の官民協働刑務所で、日本初となる TC の立ち上げに携わった心理士が、その実践を綴る。

読売新聞 2025/02/23

2024:12./ 360p
978-4-7917-7689-4
¥2,860〔税込〕

パウル・クレー作品集～詩と絵画の庭～

黒田和士 著
東京美術
日本人に愛され続けてきた画家、クレー。「前衛との交流」「破壊と創造」「バウハウスと構成主義」など、クレーの芸術世界を特徴づける 6 つの視点に沿って、選りすぐりの作品約 140 点を紹介。

読売新聞 2025/02/23

2025:1./ 191p
978-4-8087-1312-6
¥3,740〔税込〕

空と風と星と詩～尹東柱日韓対訳選詩集～

尹東柱 著
書肆侃侃房
空を仰ぎ、星をかぞえ、時代の朝を待った韓国の詩人・尹東柱の自選の 19 篇を中心に収録する日韓対訳選詩集。弟が訳者と兄の詩心をたどり、一字一句熟慮した日本語訳を掲載する。

読売新聞 2025/02/23

2025:2./ 208p
978-4-86385-661-5
¥2,200〔税込〕

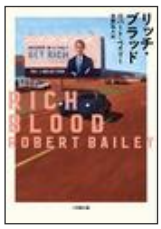
社会的共通資本(岩波新書　新赤版　696)

宇沢　弘文 著
岩波書店
混乱と混迷の現代を切り拓く展望を開いていく、著者の思索の結晶。

日本経済新聞 2025/02/01

2000:11./ 250p
978-4-00-430696-2
¥1,056〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO



リッチ・ブラッド(小学館文庫 へ 2-7)

ロバート・ ベイリー 著

小学館

ハイウェイに看板を掲げ、交通事故案件で荒稼ぎしてきた「ビルボード弁護士」ことジェイソンは、アルコール依存症で苦しんでいる。そんな中、夫殺害の容疑をかけられた姉から弁護を頼みたいとの依頼がきて…。

日本経済新聞 2025/02/01

2025:1./ 493p
978-4-09-407335-5
¥1,320〔税込〕

この星のソウル

黒川 創 著

新潮社

李朝終末期の高宗と王妃閔妃、日本の植民地統治下で創作を続けた作家や詩人、抗いを生きる思想家、東京からきた「在日」の女子留学生…。ソウルという「都」に刻まれた 150 年を辿る小説。『新潮』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:11./ 189p
978-4-10-444413-7
¥2,420〔税込〕

日米首脳会談～政治指導者たちと同盟の 70 年～(中公新書　2834)

山口航 著

中央公論新社

ロン・ヤス、小泉・ブッシュ、ドナルド・シンゾー…。トップ同士の人間関係は、何を生んできたか。米国 14 人、日本 28 人の首脳による約 150 回の会談を追い、70 年以上にわたる日米関係を政治指導者を通して描く。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:12./ 5p,365p
978-4-12-102834-1
¥1,276〔税込〕

量子超越～量子コンピュータが世界を変える～

ミチオ・カク 著

ＮＨＫ出版

「量子コンピュータ」が実用化されると、私たちの暮らしはどう変わるのか? エネルギー、医療、経済、宇宙探査…。世界的物理学者が、量子コンピュータの科学的仕組みや、ワクワクするような未来を解説する。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:12./ 414p
978-4-14-081981-4
¥2,860〔税込〕

日の名残り(ハヤカワ epi 文庫)

カズオ・イシグロ 著

早川書房

短い旅に出た老執事が、美しい田園風景のなか古き佳き時代を回想する。長年仕えた卿への敬慕、執事の鑑だった亡父、女中頭への淡い想い、二つの大戦の間に邸内で催された重要な外交会議の数々……。遠い思い出は輝きながら胸のなかで生き続ける。

日本経済新聞 2025/02/01

2001:5./ 365p
978-4-15-120003-8
¥1,012〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

浮世の画家 新版(ハヤカワ epi 文庫 95)

カズオ・イシグロ 著

早川書房

戦時中、日本精神を鼓舞する作風で名をなした画家の小野。だが、終戦を迎えたとたん周囲の目は冷たくなった。老画家は過去を回想しながら、自らが貫いてきた信念と新しい価値観のはざまに揺れる-。NHK ドラマの原作。

日本経済新聞 2025/02/01

2019:1./ 330p
978-4-15-120095-3
¥990〔税込〕

クララとお日さま(ハヤカワ epi 文庫 109)

カズオ・イシグロ 著

早川書房

人工知能を搭載したロボットのクララは、ジョジーという病弱な少女の家庭に買い取られた。やがて 2 人は友情を育んでいくが、一家には大きな秘密があった…。愛とは? 知性とは? 家族とは? 生きることの意味を問う感動作。

日本経済新聞 2025/02/01

2023:7./ 490p
978-4-15-120109-7
¥1,650〔税込〕

家が買えない～高額化する住まい商品化する暮らし～(ハヤカワ新書 037)

牧野　知弘 著

早川書房

全国で空き家問題が深刻化する一方で、なぜ異常な不動産価格の高騰が起こっているのか。不動産のプロが、庶民の手から離れて進む不動産市場の狂乱に警鐘を鳴らし、「資産性」と「通勤」に縛られた日本人の住宅選びを問い直す。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:12./ 198p
978-4-15-340037-5
¥1,254〔税込〕

資本主義再興～危機の解決策と新しいかたち～

コリン・メイヤー／宮島英昭 著

日経ＢＰ社

資本主義が抱えている深刻な問題をどのように解決すればいいのか。どうすれば資本主義を望ましい形に修正できるのか。パーパス経営の実現を中心とする新しい資本主義を再構築するための基本原則と具体策を提示する。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:12./ 447p
978-4-296-00206-1
¥3,300〔税込〕

共感革命～社交する人類の進化と未来～(河出新書 067)

山極 壽一 著

河出書房新社

「認知革命」よりも前に起きた「共感革命」とは何か? 共感が世界を作り、そして今、共感が世界を破壊しようとしている。人類史の知られざる革命から見えた、本当の人類の姿に迫る。

日本経済新聞 2025/02/01

2023:10./ 219p
978-4-309-63169-1
¥968〔税込〕

完璧主義の罠～資本主義経済が招いた新たな災厄～

トーマス・クラン 著

光文社

完璧主義とは、ひとつの経済システムが生みだした、人間ががむしゃらに限界を超えようとする心理である。この考えをもとに、完璧主義が人間に及ぼす影響、それが急激に増えている理由、そこから逃れる方法などを解説する。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:11./ 344p
978-4-334-10477-1
¥2,310〔税込〕

ヘタレ人類学者、沙漠をゆく～僕はゆらいで、少しだけ自由になった。～

小西　公大 著

大和書房

“ゆらぎの世界”は生き方や人間関係、社会のあり方に豊かな意味をもたらす。ヘタレとゆらぎをキーワードに、人類学者である「僕」が、インドのタール沙漠で貴重な経験を繰り返しながら変容していく様を赤裸々に綴った物語り。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:12./ 332p
978-4-479-39441-9
¥2,200〔税込〕

マインズ・アイ～コンピュータ時代の「心」と「私」～<下>

D・R・ホフスタッター、D・C・デネット 著

ＣＣＣメディアハウス

コンピュータは人間に代わりうるのか?認知科学に立って人間の「心と身体」「自我と魂」の謎に挑んだ壮大な知的冒険の書!

日本経済新聞 2025/02/01

1992:10./ 376p
978-4-484-92127-3
¥3,300〔税込〕

ぶち壊し屋～トランプがいたホワイトハウス 2017-2021～<上>

ピーター・ベイカー、スーザン・グラッサー 著

白水社

官僚たちの抵抗を次々と挫折させ、ホワイトハウスの混乱を力に変えたドナルド・トランプ。歴代大統領を取材し続けてきた 2 人のジャーナリストが、トランプ政権の 4 年に及ぶ「カオス」を冷徹な筆致で描く。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:9./ 496p
978-4-560-09127-2
¥3,960〔税込〕

ぶち壊し屋～トランプがいたホワイトハウス 2017-2021～<下>

ピーター・ベイカー、スーザン・グラッサー 著

白水社

官僚たちの抵抗を次々と挫折させ、ホワイトハウスの混乱を力に変えたドナルド・トランプ。歴代大統領を取材し続けてきた 2 人のジャーナリストが、トランプ政権の 4 年に及ぶ「カオス」を冷徹な筆致で描く。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:11./ 464p
978-4-560-09128-9
¥3,960〔税込〕

わたしはドナーを選んでママになる～非正規の精子提供で妊娠するまで～

ヴァレリー・バウマン 著

原書房

誰にも邪魔させない。わたしはひとりで赤ちゃんを産む-。選択的シングルマザーになると決意した女性ジャーナリストが、非正規の精子提供の世界へ飛びこみ、3 年にもおよぶ妊活生活を赤裸々に記録した感動のルポルタージュ。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:12./ 368p
978-4-562-07487-7
¥2,750〔税込〕

翻訳に生きて死んで～日本文学翻訳家の波乱万丈ライフ～

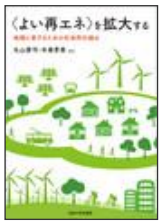
クォン・ナミ 著

平凡社

冗談じゃなく、本気で仕事中に“翻訳死”するかと思った-。村上春樹、村上龍、恩田陸など日本文学の韓国語訳を数多く手がける人気翻訳家クォン・ナミが、過酷で楽しい翻訳ライフを綴る。翻訳初心者へのアドバイスも満載。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:3./ 239p
978-4-582-83958-6
¥2,750〔税込〕



<よい再エネ>を拡大する～地域に資するための社会的仕組み～

丸山 康司、本巣 芽美 著

法政大学出版局

多様な人々に積極的に受け入れられる再生可能エネルギー(再エネ)を実現するにはどんな制度や仕組みが必要なのか。認証制度や中間支援組織など、再エネの具体的条件とそれを実現する地域共生型の社会的仕組みを明らかにする。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:12./ 256p
978-4-588-62552-7
¥3,300〔税込〕

痛み、人間のすべてにつながる～新しい疼痛の科学を知る 12 章～

モンティ・ライマン 著

みすず書房

痛みとは、感覚・情動・思考・身体知のすべてが混然一体となった、驚くべきものである。痛がる脳の最新科学を紹介し、生物・心理・社会モデルによる新しい疼痛観を解説する。用語集付き。

日本経済新聞 2025/02/01

2024:11./ 336p
978-4-622-09738-9
¥3,520〔税込〕

<自由市場>の世界史～キケロからフリードマンまで～

ジェイコブ・ソール 著

作品社

自由な市場とはいったい何を意味するのか。歴史上、国家の指導者や政治家や経済学者たちは、どのように解釈し、その実現を目指してきたのか。世界史の中で人間と経済の根源を探求し、自由市場の本質を新たな視点から読み解く。

日本経済新聞 2025/02/01、読売新聞 2025/02/23

2024:12./ 323p
978-4-86793-063-2
¥2,970〔税込〕

芸能界を変える～たった一人から始まった働き方改革～(岩波新書　新赤版2047)

森崎 めぐみ 著

岩波書店

将来への補償など存在せず、ハラスメントが横行する芸能界。女優でありながら法整備とルール作りに奮闘した著者が、芸能界のこれまでと、これからのあるべき姿を描き出す。

日本経済新聞 2025/02/08

2024:12./ 234p
978-4-00-432047-0
¥1,034〔税込〕

マネーの世界史～我々を翻弄し続ける「お金」エンタテインメント～

ジェイコブ・ゴールドスタイン 著

KADOKAWA

粘土板からビットコインまで、5000 年にわたる壮大なお金の物語をたどる。マネーとは何で、誰が創り出すのか。誰がたくさん得られ、誰が少ししか得られないのか。さまざまな時代の瞬間を紐解き、マネーの本質や力を探る。

日本経済新聞 2025/02/08

2024:12./ 336p
978-4-04-115044-3
¥2,750〔税込〕

物価を考える～デフレの謎、インフレの謎～

渡辺努 著

日経ＢＰ社

なぜ日本だけデフレは慢性化したのか? 慢性デフレはなぜ突然終わり、インフレが始まったのか? 謎に包まれた日本のデフレとインフレ。物価研究の第一人者が最先端の理論・データ分析をもとに、日本経済の謎を読み解く。

日本経済新聞 2025/02/08

2024:11./ 397p
978-4-296-12090-1
¥1,980〔税込〕

中国の恐るべき監視体制～独裁政治の未来～

ミンシン・ペイ 著

河出書房新社

なぜ中国では、強固な監視体制が維持されているのか。反体制派を未然に摘み取る「予防的弾圧」、効率のよい「分散型監視」、スカイネットやシャープアイズ等の先端技術を詳細に分析し、中国の独裁政権の実態を明かす。

日本経済新聞 2025/02/08

2024:12./ 293p
978-4-309-22949-2
¥3,850〔税込〕

文化はいかに情動をつくるのか～人と人のあいだの心理学～

バチャ・メスキータ 著

紀伊國屋書店出版部

情動は世界共通のものではなく、人が属する文化に生きることを通して作り上げられる。よりよい多文化共生社会を実現するための具体的な取り組みを紹介しながら、ひとりひとりが備えるべき<情動リテラシー>を提言する。

日本経済新聞 2025/02/08

2024:8./ 381p
978-4-314-01209-6
¥3,300〔税込〕

メディアと感情の政治学

2020:11./ 283p
978-4-326-35180-0
¥3,850〔税込〕

カリン・ウォール=ヨルゲンセン 著
勁草書房
怒り、愛情、恐怖、喜び…感情がメディアを駆けめぐっている! 取材活動にひそむ感情労働や怒りのポピュリズム、SNS の感情管理メカニズムなど、新たな視点でメディアと感情の関係に鋭く斬り込む。

日本経済新聞 2025/02/08

印象派の発明～美の技術革新と市場の創造～

2024:12./ 272p
978-4-326-85202-4
¥2,970〔税込〕

西岡　文彦 著
勁草書房
チューブ入り絵具と平筆の絵画革命、金ピカの額縁のオークション効果…。技術面から印象派の画家たちが創造したものを見直すとともに、彼らの苦闘を経済的に支え今日の印象派の国際的な市場を創造した画商を紹介する。

日本経済新聞 2025/02/08

情動、メディア、政治～不確実性の時代のカルチュラル・スタディーズ～

2024:9./ 320p
978-4-393-33408-9
¥2,750〔税込〕

川村 覚文 著
春秋社
ネット炎上や 2.5 次元アイドルへの熱狂等の現象を「情動」を切り口に読み解き、プラットフォーム資本主義や権力の支配を逃れる可能性を探る。現代とこれからの時代のためのカルチュラル・スタディーズ。

日本経済新聞 2025/02/08

サーミランドの宮沢賢治

2025:1./ 269p
978-4-560-09153-1
¥2,530〔税込〕

管　啓次郎／小島　敬太 著
白水社
「銀河鉄道の夜」起筆 100 年となる 2024 年 2 月。詩人と音楽家が、「北」へ憧れていた賢治の魂と言葉を、最北の地であるサーミランドに連れて行く旅を決行。賢治の詩想を追い求めてきた 2 人が本当の幸いを探る辺境紀行。

日本経済新聞 2025/02/08

米軍極秘特殊部隊ザ・ユニット～テロの激戦地で戦い続けた隊員の手記～

2024:11./ 337p
978-4-562-07479-2
¥3,080〔税込〕

アダム・ガマル／ケリー・ケネディ 著
原書房
戦闘および防諜能力にすぐれた精鋭たちによる、正式名も明かせない秘密実働部隊「ザ・ユニット」。テロリストの跋扈する様々な国へ派遣された元隊員の激動の半生と対テロ戦争のリアルを、当事者目線で描く。

日本経済新聞 2025/02/08

この国のかたちを見つめ直す(毎日文庫 か 4-1)

加藤陽子 著

毎日新聞出版

戦後 80 年、あるべき国家と国民の関係とは-。日本近現代史の泰斗が、国家と国民、東日本大震災、天皇と天皇制、戦争の記憶、世界と日本、そして日本学術会議会員任命拒否問題を論じる。新たに 9 編を増補し文庫化。

日本経済新聞 2025/02/08

2025:1./ 345p
978-4-620-21078-0
¥1,100〔税込〕

感情史の始まり

ヤン・プランパー 著

みすず書房

感情とは、感情史とは何か。感情をめぐる社会構築主義と普遍主義を架橋し、グランドセオリーを描く試論。歴史学における感情の扱い方の手法と重要性を説く。用語解説や主要文献目録も収録。

日本経済新聞 2025/02/08

2020:11./ 608p
978-4-622-08953-7
¥6,930〔税込〕

比較のなかの韓国政治

浅羽 祐樹 著

有斐閣

大統領の弾劾・罷免や徴用工判決など、一見不可解に映る、ダイナミックな韓国政治を理解するための注釈書。比較政治の理論のなかに韓国政治を位置づけ、政治制度から市民運動、メディア、外交政策までを幅広く解説する。

日本経済新聞 2025/02/08

2024:12./ 364p
978-4-641-14954-0
¥2,860〔税込〕

情動の社会学～ポストメディア時代における“ミクロ知覚”の探求～

伊藤 守 著

青土社

ポストメディア社会では、時として「情報」によって、あらぬ方向へ駆動されていく。SNS などの状況から、領土問題やオリンピックなどの政治問題まで、判断や思考を揺さぶる情動的な社会を最新のメディア理論で読み解く。

日本経済新聞 2025/02/08

2017:10./ 270p
978-4-7917-7017-5
¥2,640〔税込〕

新・動物の解放

ピーター・シンガー 著

晶文社

動物への非倫理的扱いを禁止せよ! ヒトが、ヒト以外の動物をどのように扱うべきかという問題を考察する。本文の 3 分の 2 を書き換え、さらに気候変動や新型ウイルスなど新たなトピックを盛り込み全面改訂。

日本経済新聞 2025/02/08

2024:12./ 447p
978-4-7949-7454-9
¥4,400〔税込〕

親子の手帖 増補版

鳥羽 和久 著

鳥影社

現代のたよりない親子たちが、幸せを見つけるための教科書。受験、学力と差別の問題、LD(学習障害)、発達障害、いじめ…。150 名超の小中高の生徒を指導する唐人町寺子屋塾長が、現代の親子のリアルな姿を切々と綴る。

日本経済新聞 2025/02/08

2021:8./ 223p
978-4-86265-897-5
¥1,540〔税込〕

生きのびるためのアート～現代ロシア美術～(五柳叢書 114)

鴻野　わか菜 著

五柳書院

生きのびることも困難だった状況で、アーティストや美術を必要としてきた人々は、美術に何を求め、そこにどのような可能性を見出してきたのか。ソ連崩壊以降の現代ロシア美術を通して、社会や文化の変容を考察する。

日本経済新聞 2025/02/08

2024:11./ 406p
978-4-901646-41-3
¥3,960〔税込〕

日本の民主主義の再評価

竹中治堅／高安健将／谷口尚子／ケネス・盛・マッケルウェイン／砂原庸介／彦谷貴子／待鳥聡史／安部敏樹／鹿毛利枝子／林香里 著

楽工社

議会開設から 130 年。日本の民主主義の優れた点は何か? 今後の課題は何か? 日本を代表する研究者・識者が徹底討論する。2021 年開催の日本国際交流センター(JCIE)企画の座談会の内容を大幅に加筆修正。

日本経済新聞 2025/02/08

2024:12./ 305p
978-4-910900-00-1
¥2,310〔税込〕

グローバルサウスの時代～多重化する国際政治～(光文社新書　1340)

脇祐三 著

光文社

米欧にも中ロにも全面的にくみすることなく、自国の安全保障と経済的な利益を確保しようとするグローバルサウス。彼らの思考体系と行動原理とは。日本の付き合い方は。グローバルサウスを軸に、世界の変化とその行方を考える。

日本経済新聞 2025/02/08、朝日新聞 2025/02/15

2024:12./ 316p
978-4-334-10509-9
¥1,100〔税込〕

昭和天皇の敗北～日本国憲法第一条をめぐる闘い～(中公選書　155)

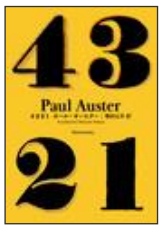
小宮京 著

中央公論新社

昭和天皇が「象徴」を受け入れたという「聖断」は存在するのか。憲法改正の過程をつぶさに検証し、昭和天皇の真意を明らかにするとともに、日本政府、GHQ、学者らの激しい攻防を描き、戦後がいかに始まったかを問い直す。

日本経済新聞 2025/02/08、読売新聞 2025/02/09、東京・中日新聞 2025/02/23

2025:1./ 296p
978-4-12-110154-9
¥2,200〔税込〕



4321

ポール・オースター 著

新潮社

ケネディ暗殺、反戦運動…。50～70 年代アメリカの歴史的事件とともに、少年が大人へと成長してゆく姿と、本や映画、スポーツなどに対する青春の情熱を描く。現代アメリカ文学を代表する作家ポール・オースターの長篇小説。

日本経済新聞 2025/02/08、毎日新聞 2025/02/08

2024:11./ 796p
978-4-10-521722-8
¥7,150〔税込〕

自由民権創成史～公論世界の成立～<上>

宮地 正人 著

岩波書店

分断して捉えられがちだった維新変革と自由民権を、密接に絡み合いながら展開する一連の歴史過程として詳らかに描き出す。上は「民選議院設立建白と公論世界の成立」「士族民権と平民民権」を収録。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:10./ 470p
978-4-00-061662-1
¥4,180〔税込〕

自由民権創成史～有司専制 vs 西南戦争～<下>

宮地 正人 著

岩波書店

分断して捉えられがちだった維新変革と自由民権を、密接に絡み合いながら展開する一連の歴史過程として詳らかに描き出す。下は「大阪会議と立憲政体の詔」「有司専制への諸抵抗の諸相」を収録。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 542p
978-4-00-061663-8
¥4,400〔税込〕

ぼくはねこの管理人～浪漫荘おもいでダイアリー～(角川文庫 た 62-25)

高橋　由太 著

KADOKAWA

ぼくは「浪漫荘」で暮らしているねこ。面倒を見てくれたおばあちゃんがいなくなって、孫の暖がやってきた。彼はなんだか頼りなくて…。レトロアパートの住人たちと新米管理人、そして言葉が分かるねこの、温かくて優しい物語。

日本経済新聞 2025/02/15

2025:1./ 281p
978-4-04-115827-2
¥770〔税込〕

日本書紀～全現代語訳～<上>(講談社学術文庫)

講談社

古代遺跡の発掘が相継ぎ、古代史への関心が高まる今日、本書は歴史への興味を倍加させずにはおかないであろう。

日本経済新聞 2025/02/15

1988:6./ 381p
978-4-06-158833-2
¥1,441〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

日本書紀～全現代語訳～<下>(講談社学術文庫)

講談社

本巻では、巻 19 の欽明天皇から巻 30 の持統天皇までの、大和朝廷が中央集権的な律令国家を完成してゆく波乱にみちた時代を描く。

日本経済新聞 2025/02/15

1988:8./ 373p
978-4-06-158834-9
¥1,331〔税込〕

プーチンに勝った主婦～マリーナ・リトビネンコの闘いの記録～(集英社新書　集英社新書ノンフィクション　1241)

小倉 孝保 著

集英社

愛する夫リトビネンコは、放射性物質によってプーチンに暗殺されたのか? その真相究明を求めて、個人で国家や組織に挑んだひとりの女性の闘いを描き、正義と自由と人間存在の根源という、深淵な命題に迫る。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 349p
978-4-08-721341-6
¥1,430〔税込〕

皇室とメディア～「権威」と「消費」をめぐる一五〇年史～(新潮選書)

河西 秀哉 著

新潮社

大正デモクラシー、人間宣言、生前退位…。重要な局面に際して、皇室とメディアはいかに相対したのか。天皇制研究者が、明治から令和までの皇室報道の赤裸々な実情を一気に展望。豊富な実例から両者の関係を読み解く。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 351p
978-4-10-603919-5
¥2,090〔税込〕

そして、バトンは渡された

瀬尾 まいこ、田川 とまた 著

文藝春秋

幼い頃に母親を亡くし、様々な親の間を「バトン」のように渡り歩いた高校 3 年生の優子。今は血の繋がらない父親と二人暮らしをしていて…。家族の形を丁寧に描く。同名小説のコミカライズ。『文春オンライン』連載を単行本化。

日本経済新聞 2025/02/15

2021:10./ 192p
978-4-16-090110-0
¥990〔税込〕

ニューロテクノロジー～脳の監視・操作と人類の未来～

ニタ・A・ファラハニー 著

河出書房新社

ニューロテクノロジーは、人類の希望か、それとも脅威か? 第一線に立つ論客が衝撃の実例をレポート。新時代の権利「認知的自由」を守り、ニューロテクノロジーをよりよく活用するために、来るべき社会の設計図を提示する。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 320p
978-4-309-30041-2
¥2,750〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

日本弁護士総史～奉行所の世話人から渉外ローファームまでの 200 年余～

安岡　崇志 著

勁草書房

江戸から明治の間の知られざる継続、戦後の新憲法・新司法制度・弁護士法、司法制度改革に関する議論・関係法令の制定及び施行…。江戸期から現代の「5 万人時代」に至るまで、なぜか語られなかった弁護士の通史を解説する。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 336p
978-4-326-40445-2
¥4,400〔税込〕

新明解国語辞典　第 8 版

山田 忠雄、倉持 保男、上野 善道、山田 明雄、井島 正博、笹原 宏之 編

三省堂

ことばの本質をとらえる国語辞典の決定版。7 万 9 千項目を収録。緻密な語の分析と、適切で文章作成に役立つ用例による詳しい語義解説を掲載。「数字の読み方」を新設した第 8 版。小型版(赤箱)、白版、青版も同時刊行。

日本経済新聞 2025/02/15

2020:11./ 1792p
978-4-385-13078-1
¥3,410〔税込〕

みんなの校正教室

大西 寿男 著

創元社

原稿を試し刷りでチェックして誤りや不備を防ぐ、校正という仕事。本・雑誌から料理レシピや手紙まで 6 つのテーマで、実習課題を通して基本から学べる。実習課題・解答例をダウンロードできる QR コード(図書館利用可)付き。

日本経済新聞 2025/02/15

2025:1./ 150p
978-4-422-93220-0
¥2,420〔税込〕

まさかの税金～騙されないための大人の知識～(ちくま新書　1838)

三木 義一 著

筑摩書房

税金は政治家や富裕層だけが得するもの? 庶民が勘違いしている盲点は? 税法のご意見番が、庶民が知っておきたい「税」知識を解説する面白税金問答。制度や権力の闇とからくりを暴きます。『東京新聞』連載を加筆・再構成。

日本経済新聞 2025/02/15

2025:1./ 272p
978-4-480-07665-6
¥1,012〔税込〕

白人になれない白人たち～中欧の反リベラリズムとレイシズム～

アイヴァン・カルマー 著

彩流社

世界に広がる反リベラル現象。その最前線である中欧で何が起きているのか? 中欧出身の文化人類学者が、民主主義の危機の背景にある「白人」間の人種差別(レイシズム)を解き明かす。

日本経済新聞 2025/02/15

2025:1./ 396p
978-4-7791-3020-5
¥3,960〔税込〕

愛と孤独のフォルクローレ～ボリビア音楽家と生の人類学～

相田　豊 著

世界思想社

南米ボリビアで「新しい音楽」として興隆したフォルクローレ。個人の物語を愛し、他者の音を聴かず、堂々と嘘を楽しむ…。共に演奏し、木を伐り、考える中で導かれた、ポスト関係論の人類学。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 352p
978-4-7907-1795-9
¥4,950〔税込〕

ことばの番人

髙橋 秀実 著

集英社インターナショナル

校正者は、日々新しいことばと出合い、規範となる日本語を守っている「ことばの番人」だ-。校正者たちの仕事、経験、思考、エピソードなどを綴り、その精緻な仕事に迫るノンフィクション。『kotoba』連載を加筆・修正。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:9./ 222p
978-4-7976-7451-4
¥1,980〔税込〕

あたらしい近代服飾史の教科書～衣服の標本で見る、着るものの歴史と文化～

長谷川 彰良 著

翔泳社

フランス革命前後や 19 世紀半ばからの西洋の衣服がどのようなもので、どのように変化していったのか、豊富な写真を添えて解説。生地のアップや裏側、ステッチ、ボタンや刺繍など、衣服の内部構造もわかる。

日本経済新聞 2025/02/15

2025:1./ 447p
978-4-7981-7827-1
¥4,620〔税込〕

新訳仏教聖典　改訂新版

木津　無庵 著

大法輪閣

仏教聖典を 8 章構成で訳出。ルビを多く付し、一般の人にわかりやすいよう配慮。1976 年初版の新装ワイド版。

日本経済新聞 2025/02/15

2003:6./ 720p

唯識～これだけは知りたい～

船山 徹、石垣 明貴杞 著

法蔵館

「これだけは知っておきたい」唯識の基本を凝縮。唯識の歴史、「アーラヤ識」をはじめとするその基本用語を中心とした思想を概説する。挿画として、現代を代表する美術工芸家が寄せた作品をカラーで掲載。

日本経済新聞 2025/02/15

2023:4./ 336p
978-4-8318-7771-0
¥1,650〔税込〕

ファイブ・アイズ～五カ国諜報同盟 50 年史～

アンソニー・R・ウェルズ 著
作品社
「ファイブ・アイズ」とは、米・英・加・豪・ニュージーランドの五カ国によるインテリジェンス共有体制の通称。50 年にわたって「ファイブ・アイズ」に関与してきた著者が、この同盟の起源と発展、未来を明らかにする。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 369p
978-4-86793-066-3
¥3,520〔税込〕

男を殺して逃げ切る方法

ケイティ・ブレント 著
海と月社
29 歳のキティ・コリンズは、ロンドン屈指の高級エリア、チェルシーに住む人気インスタグラマー。ある日、うっかり男を殺してしまったのをきっかけに、獲物をみずから探すようになり…。イギリス発の愉快でダークな物語。

日本経済新聞 2025/02/15

2024:12./ 393p
978-4-903212-87-6
¥1,980〔税込〕

1 インチの攻防～NATO 拡大とポスト冷戦秩序の構築～<上>

M.E.サロッティ 著
岩波書店
アメリカ・ロシア・欧州各国のリーダーたちが NATO 拡大をめぐってせめぎあう 1990 年代のドラマ。上は、冷戦の終焉からドイツ統一、ソ連の解体、そして米ロ関係が良好な時期を迎えた 90 年代前半を扱う。

日本経済新聞 2025/02/22

2024:12./ 462p
978-4-00-061673-7
¥4,180〔税込〕

1 インチの攻防～NATO 拡大とポスト冷戦秩序の構築～<下>

M.E.サロッティ 著
岩波書店
アメリカ・ロシア・欧州各国のリーダーたちが NATO 拡大をめぐってせめぎあう 1990 年代のドラマ。下は、中・東欧諸国の NATO 加盟が進められることで、米ロ対立があらわになる 90 年代後半を扱う。

日本経済新聞 2025/02/22

2024:12./ 446p
978-4-00-061674-4
¥4,180〔税込〕

あっという間に人は死ぬから～「時間を食べつくすモンスター」の正体と倒し方～

佐藤　舞（サトマイ） 著
KADOKAWA
「時間の浪費」はなぜ起こるのか。現代人の課題を「有意義な時間の使い方」にあるとし、先人の知恵と最新の文献から、後悔しない人生を送るための時間の使い方を体系的に整理する。書き込み式のワーク付き。

日本経済新聞 2025/02/22

2024:7./ 311p
978-4-04-606933-7
¥1,760〔税込〕

ノンバイナリー協奏曲～「もう息子と呼ばないで」と告白された私の 800 日～

アミア・ミラー 著
集英社
一人息子のアレックスから、ある日、「自分はノンバイナリー。男でも女でもないし、男でもあり女でもある」と打ち明けられた母。ジェンダーマイノリティをめぐる、世界の動きにとまどう親世代の本音をリアルにつづる。

日本経済新聞 2025/02/22

2025:1./ 283p
978-4-08-781753-9
¥2,420〔税込〕

ルポ国威発揚～「再プロパガンダ化」する世界を歩く～

辻田真佐憲 著
中央公論新社
愛国心を煽るプロパガンダの現場を求め、北海道から沖縄までの日本各地、さらにアメリカ、インド、ドイツ、フィリピンなど各国を徹底取材。SNS 時代の「新しい愛国」の正体に迫る。『文學界』連載を書籍化。

日本経済新聞 2025/02/22

2024:12./ 392p
978-4-12-005861-5
¥2,640〔税込〕

夜の底を歩く

レイラ・モトリー 著
早川書房
17 歳のキアラは兄と暮らしていた。父は病死、母は更生施設にいる。職を探すが雇ってくれる店はなく、追い詰められた果てに売春を始める。やがて街をゆるがす事件に巻き込まれ、圧倒的な悪意に取り囲まれるなかでキアラは…。

日本経済新聞 2025/02/22

2025:1./ 359p
978-4-15-210391-8
¥3,300〔税込〕

マンガ認知症<施設介護編>(ちくま新書　1814)

ニコ・ニコルソン／佐藤 眞一／小島 美里 著
筑摩書房
大好きな祖母が認知症になった。在宅介護が限界を迎え施設に入居してもらったものの、症状がみるみる悪化し、しょっちゅう施設から呼び出され…。認知症の施設介護の不安をプロが解消。彼らのアドバイスをマンガで紹介する。

日本経済新聞 2025/02/22

2024:9./ 286p
978-4-480-07648-9
¥1,034〔税込〕

となりの億万長者が 17 時になったらやっていること～大富豪が教える「一生困らない」お金のしくみ～

嶋村 吉洋 著
ＰＨＰ研究所
会社員が社会資本(コミュニティ)、人的資本(人脈)、金融資本(金)の 3 つを同時に増やす「仲間づくり」の戦略書。「即レスを徹底」「嘘をつかない」など、“幸せな”億万長者が大切にしている 45 の教えを具体的に伝える。

日本経済新聞 2025/02/22

2024:4./ 245p
978-4-569-85686-5
¥1,760〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

台湾文学の中心にあるもの

赤松美和子 著
イースト・プレス
激動する歴史の中で、文学が社会を動かし、文学が人のパワーの根源となっている台湾。日本語で読める約 50 作品を紹介しながら、政治に翻弄されつつも必死に格闘し、社会に介入してきた台湾文学を読み解き、その全貌を示す。

日本経済新聞 2025/02/22

2025:1./ 285p
978-4-7816-2415-0
¥1,980〔税込〕

いつも幸せな人は、2 時間の使い方の天才～本当に大事なことだけをして、毎日を充実させるシンプルな考え方～

今井 孝 著
すばる舎
「最高のひととき」をつくるには? 一日を享楽的に過ごすのではなく、本当の意味で幸せに生き、日々の充実感を大切にしながらも長期的には大きな結果を得られる「時間との向き合い方」を、ステップバイステップで解説する。

日本経済新聞 2025/02/22

2024:6./ 252p
978-4-7991-1233-5
¥1,650〔税込〕

学びを結果に変えるアウトプット大全

樺沢 紫苑 著
サンクチュアリ・パブリッシング（サンクチュアリ出版）
仕事や勉強をアウトプット中心に切り替えるだけで、自己成長は飛躍的に加速し、計り知れない能力を発揮できる。日本一情報を発信する精神科医が、脳科学に裏付けられた伝え方・書き方・動き方を紹介する。

日本経済新聞 2025/02/22

2018:8./ 269p
978-4-8014-0055-9
¥1,760〔税込〕

淀川長治～「映画の伝道師」と日本のモダン～

北村 洋 著
名古屋大学出版会
「日曜洋画劇場」の解説で人気を博した「サヨナラおじさん」こと淀川長治。映画会社の宣伝員、雑誌編集者、批評家など、いくつもの顔をもつこの人物は何者だったのか。変革者=映画人の思想・仕事・人生を描く。

日本経済新聞 2025/02/22

2024:12./ 304p
978-4-8158-1178-5
¥4,950〔税込〕

部下をもったらいちばん最初に読む本～人と組織のパフォーマンスを最大限に引き出す仕事術～

橋本拓也 著
アチーブメント出版
マネジメントは技術。学べば誰もが習得できる! メンバーの成長を通して組織パフォーマンスを最大化することを目指すマネジメント手法「リードマネジメント」を紹介する。チェックリストあり。

日本経済新聞 2025/02/22

2024:9./ 263p
978-4-86643-161-1
¥1,650〔税込〕

父、松本竣介

松本莞 著
みすず書房
耳の聞こえないハンディキャップを克服し、人生に敢然と立ち向かった夭折の画家・松本竣介。その生涯を、これまでの調査・研究や残された多数の資料を基に、家族に伝わる逸話や思い出を織り交ぜながら丹念に辿る。

日本経済新聞 2025/02/22、毎日新聞 2025/02/22

2025:1./ 365p 図版 16p
978-4-622-09753-2
¥4,400〔税込〕

チャーリーとの旅～アメリカを探して～(岩波文庫　赤 327-4)

ジョン・スタインベック 著
岩波書店
1960 年。大統領選挙の直前、激動の 10 年の始まりの年。ロシナンテと名づけた改造トラックで、老プードルを相棒に全国をめぐる旅に出た作家は、アメリカのどんな真相を見たのか。路上を行く旅の記録。

毎日新聞 2025/02/01

2024:11./ 446p
978-4-00-323274-3
¥1,364〔税込〕

小説

野崎 まど 著
講談社
5 歳で読んだ「走れメロス」をきっかけに、内海集司の人生は小説にささげられることになった。12 歳の時生涯の友と出会い、2 人は小説家が住んでいるというモジャ屋敷に潜り込む。その屋敷にはある秘密があった…。

毎日新聞 2025/02/01

2024:11./ 218p
978-4-06-537326-2
¥2,145〔税込〕

スペアタウン～つくろう自分だけの予備の街～<1>

清野 とおる 著
集英社
有事の際、迷わずスムーズに越せる&住める予備の街、スペアタウンさえあれば安心安全もう大丈夫! 池袋、蒲田、多摩センター、豊橋…漫画家・清野とおるがスペアタウンを探す。『UOMO』連載に描き下ろしを加え書籍化。

毎日新聞 2025/02/01

2023:10./ 166p
978-4-08-790142-9
¥1,320〔税込〕

神坐す～世界遺産宗像大社沖ノ島自然と祭り～

山村 善太郎 著
小学館
古代 4 世紀から数百年にわたって、国家による祭祀が執り行なわれた沖ノ島。2017 年に世界遺産に登録されてから一般の人が上陸できなくなった沖ノ島の自然と、宗像大社の国宝や神事などを撮影した写真集。

毎日新聞 2025/02/01

2024:11./ 111p
978-4-09-682477-1
¥3,300〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

生きるための読書

津野 海太郎 著
新潮社
老化につれて狭くなった私の世界の外で、新しく魅力的な知的世界が着実に築かれつつあるらしい…。伊藤亜紗、斎藤幸平など、若い世代の知性にふれ、学んでゆく喜びをいきいきと綴る。『熱風』連載を改題して単行本化。

毎日新聞 2025/02/01

2024:12./ 221p
978-4-10-318535-2
¥2,200〔税込〕

モナ・リザのニスを剝ぐ(CREST BOOKS)

ポール・サン・ブリス 著
新潮社
ルーヴルの学芸員オレリアンは、ヤリ手新館長ダフネから<モナ・リザ>の表面を覆うニスを剝がし、本来の姿に修復するプロジェクトを命じられる。やがて国家をも巻き込む大騒動へ…。美とは、本物とは何かを問いかける小説。

毎日新聞 2025/02/01

2024:12./ 317p
978-4-10-590198-1
¥2,640〔税込〕

砂のように眠る～私説昭和史(1)～(中公文庫　せ 9-4)

関川夏央 著
中央公論新社
昭和とは何だったのか。「戦後」社会を、著者自身の経験に拠った等身大の主人公視点の小説と、「山びこ学校」「何でも見てやろう」など当時のベストセラーについての評論で、交互に照らし出す。新たに自著解説を付す。

毎日新聞 2025/02/01

2024:11./ 347p
978-4-12-207582-5
¥1,210〔税込〕

森田繁子と腹八分

河﨑秋子 著
徳間書店
自然と農業のちょうどよいところ。伝説の農業コンサルタント・森田繁子(モリシゲ)は今日も腹八分を目指して依頼人の所へかけつけ、「農」にまつわる悩みをズバッと解決! 『日本農業新聞』連載を加筆修正。

毎日新聞 2025/02/01

2024:11./ 337p
978-4-19-865923-3
¥1,980〔税込〕

科学的根拠で子育て～教育経済学の最前線～

中室牧子 著
ダイヤモンド社
将来の収入を上げる教育とは? 「第 1 志望校の最下位」と「第 2 志望校の 1 位」ではどちらが有利? さまざまなデータを駆使して得られた科学的根拠に基づいて、教育や子育てに有益な提案をする。

毎日新聞 2025/02/01

2024:12./ 311p
978-4-478-12109-2
¥1,980〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

アリの放浪記～多様な個が生み出す驚くべき社会～

2025:1./ 406p
978-4-635-23012-4
¥3,190〔税込〕

オドレー・デュストゥール／アントワーヌ・ヴィストラール 著
山と渓谷社
地球上に 2 万種存在するともいわれているアリの魅惑的な社会生活を、世界的アリの研究者が紹介する。個体の 5～10%しかいない巣の外に出て食べ物を探し求めるアリ「採餌アリ」に焦点を当て、アリたちの視点で世界を見る。

毎日新聞 2025/02/01

黄昏の光～吉田健一論～

2024:10./ 294p
978-4-7942-2742-3
¥2,860〔税込〕

松浦 寿輝 著
草思社
批評、講演録など、松浦寿輝による吉田健一論を集成。名宰相・吉田茂の息子である吉田健一が晩年に成し遂げた文業の質と量、豊かさと密度の高さを「日本近代文学史上の奇蹟」の一つと評し、彼の人物と作品の魅力を解き明かす。

毎日新聞 2025/02/01

変わりゆくものを奏でる～21 世紀のジャズ～(ele‐king books)

2024:11./ 439p
978-4-910511-84-9
¥3,520〔税込〕

ネイト・チネン 著
Ｐヴァイン
ジャズはその起源以来のどこの時期にも劣らず、現在も激しい揮発性を持ち、生成力に富む-。カマシ・ワシントンからメアリー・ハルヴォーソンまで、元ニューヨーク・タイムズ紙のジャズ批評家が 21 世紀のジャズを解説する。

毎日新聞 2025/02/01

南海トラフ地震はいつ来るのか～日向灘地震発生!!南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」は何だったのか?～

2025:1./ 152p
978-4-911064-19-1
¥1,540〔税込〕

神沼 克伊 著
ロギカ書房
2024 年 8 月 8 日、日向灘で M7.1 の地震が発生した。その 2 時間後に気象庁から発表された、南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」は何だったのか? 地震の構造を解説しながらそのパズルを解き、対策を示す。

毎日新聞 2025/02/01

能十番～新しい能の読み方～

2024:12./ 252p
978-4-10-355911-5
¥3,685〔税込〕

いとう せいこう／ジェイ・ルービン 著
新潮社
能とは、こんなに面白いものだったのか! 「高砂」などの精選 10 曲の解説、詞章、いとうせいこうの現代語訳、ジェイ・ルービンによる英訳を収録。柴田元幸との鼎談なども掲載。『新潮』連載を加筆修正、書下ろしを加える。

毎日新聞 2025/02/01、読売新聞 2025/02/02

謎の香りはパン屋から

土屋うさぎ 著
宝島社
大学 1 年生の小春はパン屋でアルバイトしている。あるとき親友の由貴子にドタキャンされてしまう。誘ってきたのは彼女のほうなのにどうして? 小春は彼女の行動を振り返り、意外な真相に辿りつく…。<日常の謎>連作短編集。

毎日新聞 2025/02/03

2025:1./ 253p
978-4-299-06264-2
¥1,650〔税込〕

かぶきもん

米原 信 著
文藝春秋
時は文化文政。今をときめく色男・菊五郎に芝居の現人神・團十郎が揃い咲き、天才狂言作者・鶴屋南北はケチな金主と化かし合い。『オール讀物』掲載に書き下ろしを加え書籍化。オール讀物新人賞受賞作収録。

毎日新聞 2025/02/03、産経新聞 2025/02/23、読売新聞 2025/02/23

2025:1./ 255p
978-4-16-391935-5
¥1,870〔税込〕

宮﨑駿イメージボード全集<1>　風の谷のナウシカ

宮﨑 駿、スタジオジブリ 著
岩波書店
映画監督かつアニメーターでもある宮崎駿が、オリジナル作品「風の谷のナウシカ」の制作にあたり、自身で描いたイメージボードやストーリーボードを中心に様々な<絵>を集めた画集。可能な限り原寸サイズで掲載する。

毎日新聞 2025/02/08

2024:12./ 108p
978-4-00-028831-6
¥4,620〔税込〕

論理的思考とは何か(岩波新書　新赤版 2036)

渡邉 雅子 著
岩波書店
論理的思考法は世界共通でないゆえに、思考する目的を明確にして目的に合った思考法を選ぶ技術が要る。「経済」「政治」「法技術」「社会」の 4 領域に固有の論理と思考法を、各国の学校の「作文の型」に注目して抽出する。

毎日新聞 2025/02/08

2024:10./ 204p
978-4-00-432036-4
¥1,012〔税込〕

手段からの解放～シリーズ哲学講話～(新潮新書　1072)

國分 功一郎 著
新潮社
「楽しむ」とはどういうことか。カントの哲学をヒントに、人間の行為を目的と手段に従属させようとする現代社会の病理に迫る。『新潮』掲載の論考と 2023 年に行った東京大学での講話の記録を改稿・加筆して収録。

毎日新聞 2025/02/08

2025:1./ 207p
978-4-10-611072-6
¥968〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

アッシリア全史～都市国家から世界帝国までの 1400 年～(中公新書　2841)

小林 登志子 著

中央公論新社

「旧約聖書」では悪役に描かれるアッシリアだが、その実像はバビロニアの先進文明に学び、長きにわたって栄えた個性的な国。紀元前 2000 年に誕生し、前 609 年に瓦解するまでの盛衰を、軍事・宗教・交易など多角的に描く。

毎日新聞 2025/02/08

2025:1./ 352p
978-4-12-102841-9
¥1,364〔税込〕

漢方を交えた医療論～和漢診療学からの提言～

寺澤 捷年 著

医学書院

日本の漢方医療の第一人者が、40 年余、東西両医学を活用する臨床医として活躍する中で見えてきた「漢方と科学の関係」や「理想とする医療の姿」について記述。東西の壁を取り除き、漢方の知恵を活用する医療論を説く。

毎日新聞 2025/02/08

2024:11./ 240p
978-4-260-05741-7
¥5,500〔税込〕

蝶ネクタイ先生の飲み食い談義(河出文庫　た 54-1)

高橋 義孝 著

河出書房新社

酔って醜態をさらしても、それも消し去りがたいわれわれの人生の一齣ではないか-。内田百閒の弟子にして、山口瞳の師である江戸っ子名随筆家による、けれん味のない食と酒の思い出を集成。

毎日新聞 2025/02/08

2024:2./ 275p
978-4-309-42084-4
¥990〔税込〕

ドイツの心ととのうシンプルな暮らし 365 日～ロジカルでありながら優しい人たちが育んできたこと～

久保田 由希 著

自由国民社

「もの」より「こと」を大切に、日々を満ち足りた気持ちで過ごすための秘訣を一緒に探してみませんか? ベルリンで 18 年近く暮らした著者が、ドイツで経験したありのままの 365 日を写真とともに綴る。

毎日新聞 2025/02/08

2024:11./ 367p
978-4-426-13051-0
¥1,870〔税込〕

ゴッホ麦畑の秘密(筑摩選書　0295)

吉屋 敬 著

筑摩書房

耳切りやピストル自殺により、狂気の画家とも言われるゴッホ。だが発作が起きていない時は知的かつ冷静であった。ゴッホの知られざる人間像と画業の真実に、美術史家・画家である著者ならではの視点で新しい光を当てた評伝。

毎日新聞 2025/02/08

2025:1./ 301p
978-4-480-01812-0
¥2,200〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

魔窟～知られざる「日大帝国」興亡の歴史～

森 功 著

東洋経済新報社

日本一のマンモス私大、日本大学。中興の祖「古田重二良」の呪縛、田中英壽体制の地下水脈、アメフト部薬物事件…。日大の権力と闇に光を当て、その歴史に迫る。『デジタル中央公論』『ファクタ』連載を大幅に加筆し書籍化。

毎日新聞 2025/02/08

2024:12./ 356p
978-4-492-22425-0
¥1,980〔税込〕

戻れないけど、生きるのだ～男らしさのゆくえ～

清田 隆之 著

太田出版

フェミニズムから受け取った重たい宿題。これからの<俺たち>へ-。様々な本やドラマを取り上げ、著者の個人的な体験なども紹介しながら、男性性の問題をめぐる今とこれからについて考える。

毎日新聞 2025/02/08

2024:12./ 299p
978-4-7783-1996-0
¥2,090〔税込〕

うつわ

石村由起子 著

青幻舎

わたしを作り、育て、今なお刺激を与え続けてくれるうつわの数々-。奈良にあるカフェと雑貨の店<くるみの木>店主が、これまでに出合った思い入れあるうつわたちを、エピソードとともに紹介する。

毎日新聞 2025/02/08

2025:1./ 125p
978-4-86152-981-8
¥3,300〔税込〕

パリ十区サン=モール通り二〇九番地～ある集合住宅の自伝～

リュト・ジルベルマン 著

作品社

東欧からのユダヤ系移民たちや貧しい人々が数多く住むパリの集合住宅は、ナチス占領下の困難な時代をいかに乗り越えたのか。1940 年代前半を中心に、この集合住宅で暮らした名もなき無数の人々の物語を丹念に紡ぎだす。

毎日新聞 2025/02/08

2024:8./ 383p
978-4-86793-043-4
¥3,960〔税込〕

<序文>の戦略～文学作品をめぐる攻防～(講談社選書メチエ　795)

松尾 大 著

講談社

文学作品の<序文>とは戦いの場である。盗用疑惑に反論するかと思えば、前もって不出来の言い訳をする。修辞学の第一人者が文学を中心に古今の作品を渉猟し、<序文>に仕掛けられた多様な作戦を紹介する。

毎日新聞 2025/02/15

2024:2./ 300p
978-4-06-534598-6
¥2,200〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

恋する仏教～アジア諸国の文学を育てた教え～(集英社新書　1245)

石井 公成 著
集英社
洒落や掛詞、ちょっとしたおふざけ…身近なようで実は知らなかった仏教の本当の姿とは。仏教文学研究の第一人者が、膨大な資料から、アジア諸国における恋愛文学と仏教の関係を検討し、新たな仏教の一面を明らかにする。

毎日新聞 2025/02/15

2025:1./ 263p
978-4-08-721345-4
¥1,100〔税込〕

対馬の海に沈む

窪田 新之助 著
集英社
日本一の営業実績を誇った、JA 対馬の男性職員が溺死した。彼には巨額の横領の疑いがあったが、果たしてこれは彼一人の悪事だったのか…。営業ノルマという JA の構造上の問題と金を巡る人間模様を抉り出すノンフィクション。

毎日新聞 2025/02/15

2024:12./ 323p
978-4-08-781761-4
¥2,310〔税込〕

僕には鳥の言葉がわかる

鈴木 俊貴 著
小学館
「シジュウカラが 20 以上の単語を組み合わせて文を作っている」ことを世界で初めて解明した研究者が、鳥の言葉を科学的に解明するための実験方法などを、軽快に綴る。シジュウカラの鳴き声が聞ける QR コード付き。

毎日新聞 2025/02/15

2025:1./ 263p
978-4-09-389184-4
¥1,870〔税込〕

ザ・ルーム・ネクスト・ドア

シーグリッド・ヌーネス 著
早川書房
重い病を患う友人を見舞った作家に、友人は「心の準備ができたら薬を飲んで死を選ぶ」と告げ、その時まで隣にいてほしいと頼む。思いがけぬ日々に作家が見たものは-。苦しい時を生きる人々を共感とユーモアをもって描き出す。

毎日新聞 2025/02/15

2025:1./ 237p
978-4-15-210410-6
¥2,420〔税込〕

科学者の流儀～それでも研究はやめられない～

渡辺政隆 著
日経ＢＰ社
ホーキング、アインシュタイン、南部陽一郎、オッペンハイマー、グドール、牧野富太郎…。歴史的な研究成果、評伝、インタビューなど、『日経サイエンス』の選りすぐりの記事で、科学者の実像に迫る。

毎日新聞 2025/02/15

2024:12./ 263p
978-4-296-12308-7
¥1,980〔税込〕

現代「ますように」考～こわくてかわいい日本の民間信仰～

井上 真史 著
淡交社
見えざる対象に「〇〇しますように」と願う人間の「行為」を楽しみながら観察。各地に生存する、生活や習俗と密着したこわくてかわいらしい願いや信心を探し歩き、民俗学や怪談研究を活かした著者独自の視点で紹介する。

毎日新聞 2025/02/15

2024:12./ 223p
978-4-473-04651-2
¥1,650〔税込〕

超芸術トマソン(ちくま文庫)

赤瀬川原平 著
筑摩書房
毎日新聞 2025/02/15

1987:12./ 495p
978-4-480-02189-2
¥1,210〔税込〕

皮膚のデザイン

廣川玉枝 著
晶文社
身体全体を覆う革新的衣服「スキンシリーズ」に込めた<身体の夢>への想い-。レディ・ガガへの衣装提供など、世界的に活躍する著者のデザイン論。自身の活動の軸となる「皮膚」と「衣服」の関係性をデザイン視点から紐解く。

毎日新聞 2025/02/15

2024:12./ 347p
978-4-7949-7422-8
¥2,640〔税込〕

鈴木忠志の演劇～騙る身体と利賀の思想～

本橋　哲也 著
月曜社
劇団 SCOT を主宰し、演劇の実践をとおして、同時代を生きる人間像を描き続けてきた演出家・鈴木忠志。その仕事を「利賀から世界へ」を主題とする理論編と、代表的舞台をテーマ別に分析した作品編とにより詳細に検証する。

毎日新聞 2025/02/15

2024:12./ 319p
978-4-86503-198-0
¥2,640〔税込〕

大きなシステムと小さなファンタジー～ゆっくり、いそげ 2～

影山知明 著
クルミド出版
目指すべき未来は「植物が育つように、いのちの形をした」経済であり、社会。一人一人の創造的な想像力が花開く世界-。カフェ「クルミドコーヒー」を拠点にいのちが大切にされる社会づくりに取り組む著者による、実践の記録。

毎日新聞 2025/02/15

2024:12./ 475p
978-4-9907583-8-7
¥2,750〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO

シン・百人一首～現代に置き換える超時空訳～

ピーター・J・マクミラン 著
月の舟
日本文化を世界に発信するアイルランド人の著者が、古典文学の世界と今の日常が想像以上に似ていることを感じてほしいとの思いから「百人一首」を現代風にアレンジ。その背景にある社会問題の解説、原文なども収録。

毎日新聞 2025/02/15

2024:12./ 255p
978-4-9913962-0-5
¥1,980〔税込〕

太郎と TARO(トーチコミックス)

大白小蟹 著
リイド社
新たな戦争の時代に突入した今、次世代のマンガ家が絵で語る戦争の寓話。

毎日新聞 2025/02/15、毎日新聞 2025/02/22

2024:12./ 64p
978-4-8458-6774-5
¥4,950〔税込〕

永～句集～

福永　法弘 著
KADOKAWA
雪しづる目覚めたくなき夢途中 貝桶を開けば光溢れ出づ 木の葉髪遺言めくもの何もなし 今生の舞台迫り出す花の上 平成 26 年～令和 6 年初夏の作品から自選した三百余句を収めた第 4 句集。

毎日新聞 2025/02/17

2024:10./ 189p
978-4-04-884612-7
¥2,970〔税込〕

Another Good Day!～歌集～(現代歌人シリーズ 39)

矢部雅之 著
書肆侃侃房
クライスラービルの片面にさす夕陽夏を経て今かげの静けく 十九歳の自画像のみぎはんぶんは紺の闇およそ青春は闇 猫のいふ寝言ききつつ吾もまた夢の中にてそに返事をす 第 2 歌集。

毎日新聞 2025/02/17

2025:1./ 141p
978-4-86385-656-1
¥2,420〔税込〕

ホロコーストとジェノサイド～ガリツィアの記憶からパレスチナの語りへ～

オメル・バルトフ 著
岩波書店
イスラエル生まれのジェノサイド研究の第一人者が、自身のホロコースト研究とガリツィア(西ウクライナ)にルーツのある自分史を重ね、パレスチナの今へと語りつなぐ。イスラエル=パレスチナの共感的理解を希求する論集。

毎日新聞 2025/02/22

2024:11./ 350p
978-4-00-061671-3
¥5,720〔税込〕

むはの断面図(角川文庫)

椎名　誠 著
角川書店
毎日新聞 2025/02/22

2002:11./ 254p

MORAL～善悪と道徳の人類史～

ハンノ・ザウアー 著
講談社
行き過ぎた正義は「悪」になるのか? 石器時代の集団で生きるためのルールから、言葉狩りやキャンセルカルチャーまで、気鋭の哲学者が 500 万年にわたる「人類の善と悪」の変遷を追い、共生のための課題を明かす。

毎日新聞 2025/02/22

2024:11./ 430p
978-4-06-537059-9
¥2,750〔税込〕

持続不可能な財政～再建のための選択肢～(講談社現代新書　2762)

河村 小百合／藤井 亮二 著
講談社
財政規律を失った世界最悪の借金大国ニッポン。この国はもうダメなのか。静かに迫る「破綻」を避けるために何ができるのか。財政のエキスパートが分析し、具体的な改革の選択肢の例を示す。

毎日新聞 2025/02/22

2025:1./ 286p
978-4-06-538468-8
¥1,210〔税込〕

関東大震災と東京大学～教訓を首都直下地震対策に活かす～(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター叢書 1)

目黒　公郎 編
東京大学出版会
1923(大正 12)年 9 月 1 日発生の地震(大正関東地震)と被害(関東大震災)に関し、この巨大災害への直後対応から復旧・復興に至る全容を解説。当時の東京大学の関わりも紹介。2023 年開催のシンポジウムを書籍化。

毎日新聞 2025/02/22

2024:12./ 264p
978-4-13-066714-2
¥3,850〔税込〕

百にゃん一首

笠間書院にゃんこ部 編
笠間書院
手のひらにおさまる子猫の儚さに 命の重さと愛しさ募る 100 匹を超える猫の写真に、飼い主の想いや、猫の心の中を代弁する短歌を添える。短歌は書き下ろしの作品のほか、飼い主や明治・昭和の歌人の歌も収録。

毎日新聞 2025/02/22

2024:12./ 111p
978-4-305-71029-1
¥1,870〔税込〕

猫うた千年の物語

中村 健史 著
淡交社
猫好きの血は平安から現代まで受け継がれてきた。しかし猫ラブな貴族も和歌に猫を詠むのは NG だった? 江戸期の猫を描く名句・名詩とは? 平安から明治まで、猫の登場する詩歌をひもとく。

毎日新聞 2025/02/22

2024:11./ 223p
978-4-473-04650-5
¥1,760〔税込〕

忠臣蔵の四季

古井戸　秀夫 著
白水社
春は塩治判官の「刃傷」から「城明渡し」まで、冬は大星由良之助の出立から「討入」まで。春に始まり冬に終わる名作「忠臣蔵」の魅力を、「季節」を切り口に、視覚的・重層的に人物たちの姿と共に浮かび上がらせる。

毎日新聞 2025/02/22

2024:12./ 304p
978-4-560-09140-1
¥4,290〔税込〕

高浜虚子～余は平凡が好きだ～(ミネルヴァ日本評伝選)

坪内　稔典 著
ミネルヴァ書房
雑誌『ホトトギス』を拠点に俳句を大衆文芸として定着させる一方、写生文・小説の分野でも多彩な活躍を見せた高浜虚子。俳句の詠み手・選者として多大な影響力を有し、小説家・編集者の顔も持った虚子の生き様を軽やかに描く。

毎日新聞 2025/02/22

2024:12./ 240p
978-4-623-09862-0
¥2,860〔税込〕

わたしたちの中絶～38 の異なる経験～

石原　燃／大橋　由香子 著
明石書店
産む・産まない・産めないを、国家や医療、他者が管理しようとするこの世界。日本における中絶の歴史を振り返り、当事者の声と、支援者や研究者、取材者などの立場で様々な中絶を見聞きした人たちの声を収録。

毎日新聞 2025/02/22

2024:12./ 401p
978-4-7503-5859-8
¥2,970〔税込〕

若者の戦争と政治～20 代 50 人に聞く実感、教育、アクション～

仕事文脈編集部 編
タバブックス
1994～2004 年生まれの 50 人がアンケートで答えた、戦争・政治への実感や教育において印象的だったことを掲載。社会に無関心とも言われる若者世代について知ると共に、その背景にある出来事や政治の変遷を追う。

毎日新聞 2025/02/22

2024:12./ 231p
978-4-907053-72-7
¥1,870〔税込〕

MARUZEN-YUSHODO